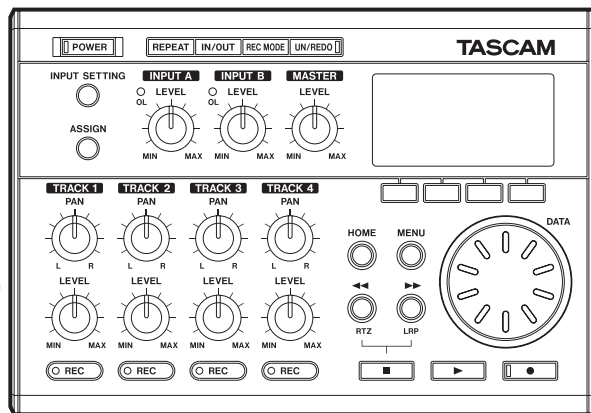


D01054901B

TASCAM
TEAC PROFESSIONAL

DP-004

Portable 4-Track Digital Pocketstudio





取扱説明書




安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告



万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一、機器の内部に異物や水などがいった場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告



万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



本体を絶対に分解しないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC 電源）には接続しないで下さい。火災の原因になります。

航空機の運航の安全に支障を及ぼすおそれがあるため、離着陸時の使用は航空法令により制限されていますので、離着陸時は本機の電源をお切りください。

⚠ 注意



移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠️ 注意

オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。



電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

この機器に、ACアダプターを接続する場合、専用のACアダプター（PS-P520）をご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。



ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激する様な大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えることがあります。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- ・ 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

⚠️ 警告 (乾電池に関する警告)

本製品は乾電池を使用しています。誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意事項を必ず守ってください。



乾電池は絶対に充電しないでください。
乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠️ 注意 (電池に関する注意)

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意事項を必ず守ってください。



電池をいれるときは、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、電池ケースの表示されているとおりに正しく入れてください。
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。



指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。

電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。

電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
液が目に入った時には失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。液が体や衣服に付いた時は皮膚の怪我・やけどの原因になるのできれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。

電池のセットや交換は、本機の電源を切った状態で行ってください。

長時間使用しないときは電池を取り出しておいてください。
電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。
もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

目次

安全にお使いいただくために.....	2	第3章 各部の名称と機能.....	28
第1章 はじめに.....	9	トップパネル.....	28
本機の概要.....	9	フロントパネル.....	31
この取扱説明書について.....	9	リアパネル.....	31
取扱説明書の概要.....	9	右サイドパネル.....	32
取扱説明書の表記について.....	9	左サイドパネル.....	32
本機の構成.....	10	ボトム.....	33
商法および著作権について.....	10	第4章 準備.....	34
SDカードについて.....	10	SDカードと電源の準備.....	34
取り扱い上の注意.....	10	SDカードをセットする.....	34
結露について.....	10	電源を準備する.....	35
製品のお手入れ.....	11	電池をセットする.....	35
アフターサービス.....	11	別売のACアダプターを接続する.....	36
第2章 クイックスタートガイド.....	12	起動と終了.....	36
クイックスタートガイド1 (再生とミキシング).....	12	起動する.....	36
準備する.....	12	終了する.....	37
デモソングを聴く.....	14	SDカードを初期フォーマットする.....	38
終了する.....	15	ディスプレイ画面.....	38
クイックスタートガイド2 (録音からマスタリング).....	16	ホーム画面.....	38
入力ソースを接続、設定する.....	16	画面構成.....	40
ソングをロードする.....	17	画面操作.....	40
ギターをトラック1の録音ソースにする.....	18	名前の編集.....	42
入力レベル調整とモニター.....	18	レコーダーモード.....	43
トラック1にギターを録音する.....	20	外部機器との接続.....	44
聴いてみる.....	20	リアパネル.....	44
録音を重ねる(1) ~トラック2にギターを録音.....	21	右サイドパネル.....	44
録音を重ねる(2) ~トラック3にボーカルを録音.....	22	左サイドパネル.....	45
ミックスダウンする.....	24	コントラストを設定する.....	45
マスタリングする.....	25	第5章 ソングの管理.....	46
終了する.....	27	パーティションとソング.....	46
		アクティブパーティションを変更する.....	46

ソングをロードする	47	トラックバウンスを行う	67
新しいソングを作成する	48	結果を確認する	67
ソングを保存する	48	ロケート／サーチ機能	68
ソング情報を見る	49	ダイレクトロケート機能	68
ソングをコピーする	49	RTZとLRP	68
ソングを消去する	51	早送り／早戻しサーチ	69
ソングをプロテクトする	52	リピート再生	69
第6章 基本レコーディング	53	IN／OUTポイントを設定する	69
入力ソースを選択する	53	リピート再生を実行する	70
入力信号のモニターについて	54	リピート再生の間隔を設定する	71
モニターモードを設定する	54	第8章 さまざまな機能	72
OLインジケーターおよびメーターについて	55	メトロノーム機能	72
入力チャンネルをアサインする	56	チューナー	73
レコーディング（最初の録音）	57	電源のオートオフ	74
オーバーダビング	58	プリファレンス設定を初期設定に戻す	74
設定	58	情報を見る	75
リハーサル	59	第9章 SDカードの管理	77
本番	59	パーティションの概要	77
ミックスダウン	59	カードのライトプロテクトについて	77
レベルとバランス	59	カードをフォーマットする	78
定位（パン）	60	MTRパーティションを再フォーマットする（リフォーマット）	79
マスタリング	60	FATパーティションを再フォーマットする	80
終了点を設定する	60	カードをイニシャライズする	81
マスタリングを実行する	61	第10章 トラックの編集	82
実行した操作を取り消す（アンドゥ）	63	トラック編集の概要	82
最後に行った操作を取り消す（シングルアンドゥ）	63	編集ポイント	82
ある操作以降の操作を取り消す（マルチアンドゥ）	63	編集の基本操作	82
操作履歴の消去について	64	クローントラック（トラック複製）	83
第7章 レコーダー機能	66	クリーンアウト（トラック削除）	83
パンチイン／アウト	66		
トラックバウンス	66		

目次

サイレンス（部分消去）.....	84
カット（部分削除）.....	84
オープン（無音挿入）.....	85
第11章 パソコンを使ったデータ送受信	86
必要なパソコンシステム.....	87
パソコンと接続する.....	87
接続を解除する.....	88
ソングのバックアップとリストア.....	89
ソングをバックアップする.....	89
ソングをリストアする.....	90
トラックのインポートとエクスポート.....	91
トラックをインポートする.....	91
トラックをエクスポートする.....	93
ステレオマスターをエクスポートする.....	94
第12章 トラブルシューティング	96
第13章 仕様・ブロックダイアグラム・メッセージ	97
オーディオ出力定格.....	97
オーディオ性能.....	97
一般.....	97
別売アクセサリ.....	98
接続するパソコンの条件.....	98
寸法図.....	98
ブロックダイアグラム.....	99
メッセージ.....	100
第14章 こんなことをするには	105

このたびは TASCAM DP-004 デジタルポケットスタジオをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機は高音質の録音が可能な4トラックのデジタルレコーダーです。操作がわかりやすくシンプルですので、録音操作に悩むことなく、音楽創作に専念することができます。本機の正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

この取扱説明書をよくお読みになり、いつでも見られるところに保管してください。

本機の概要

本機はSDカードを使って、同時最大2トラック、トータル最大4トラックのマルチトラック録音を行うことができます。さらに内蔵のミキサー機能を使ってマルチトラックをステレオミックスダウンして、ステレオマスターを作成することができます。

こうして作成されたステレオマスターをUSB接続したパソコンに転送することができます。

さらに本機とパソコン間でのデータ転送が可能で、個々のトラックデータやステレオマスターをパソコンにコピーしたり、ソングデータをパソコンにバックアップすることができます。

この取扱説明書について

取扱説明書の概要

「第2章 クイックスタート」をお読みになると、本機のおおまかな使い方がわかります。お買い上げ後、この章に述べられている操作例に従

って、実際に操作してみることをお勧めします。

「第3章 各部の名称と機能」には、パネル上のキー、つまみ、端子などの機能が説明されています。

「第4章 準備」と「第5章 ソングの管理」は、本機をご使用する前にお読みになることをお勧めします。

「第6章 基本レコーディング」～「第11章 パソコンを使ったデータ送受信」までは、本機の使い方と機能が詳しく述べられています。

「第12章 トラブルシューティング」は、本機を操作中に困ったことが起きたときにご覧ください。よくある質問と回答の一覧が記載されています。

「第14章 こんなことをするには」には、こんなことをしたいのに操作方法がわからない、というときにご覧ください。操作方法と参照ページが表にまとめてあります。

取扱説明書の表記について

- 本機および外部機器のキー／端子、画面に表示されるメッセージなどを「MENUキー」のように太字で表記します。
- LCDディスプレイの下に並び4つのキーをファンクションキーと呼び、左から順に**F1**、**F2**、**F3**、**F4**キーと表記します。また、画面の下部に表示される機能を、キー名の後ろにカッコ付きで表記する場合があります。例：**F4** (▶) キー、**F2** (EXEC) キー。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこんなふうに使うことができる、といったヒントを記載します。

第1章 はじめに

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、録音したデータが失われたりする可能性がある場合に記載します。

本機の構成

本機の構成は以下の通りです。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷がある場合、当社までご連絡ください。

- 本体 1
- SDカード（本体差込済み） 1
- USBケーブル 1
- 単3（AA）アルカリ乾電池 4
- 取扱説明書（本書） 1
- 保証書 1

商標および著作権に関して

* SDロゴは商標です。



- * Microsoft, Windows, Windows 2000, Windows XP, および Windows Vistaは、米国 Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- * Macintosh, Mac OS, および Mac OS Xは、Apple Inc. の商標です。
- * その他このマニュアルに記載されている社名・商品名およびロゴマークは、一般に各社の登録商標または商標です。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SDカードについて

本機ではSDカードを使って録音/再生を行います。

使用できるカードは512MB以上のSDカードおよびSDHCカードです。タスカムのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

取り扱い上の注意

SDカードは精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。

- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。
化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛める原因となります。

アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、業務用製品の場合は、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。

- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、ご購入の販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
 - 型名、型番（TASCAM DP-004）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名

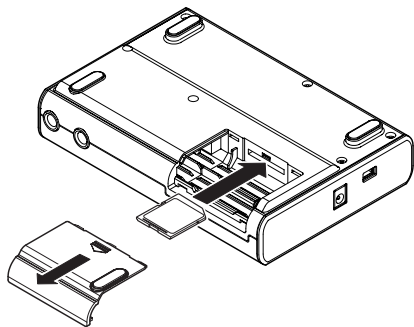
第2章 クイックスタートガイド

クイックスタートガイド 1 (再生とミキシング)

付属のSDカードに収録されているデモソングを再生してみましょう。
なお、本機購入時、ボトム部の電池ボックスの中には、デモソングが録音されているSDカードがあらかじめセットされていますが、以下に述べる手順では、SDカードをセットする方法から説明を行います。

準備する

1. ボトム部の電池ボックスの蓋を開けて、奥にあるSDカードスロットに付属のSDカードをセットします。
間違った向きに挿入して無理に力を加えると、スロットやカードを破損する可能性がありますのでご注意ください。



注意

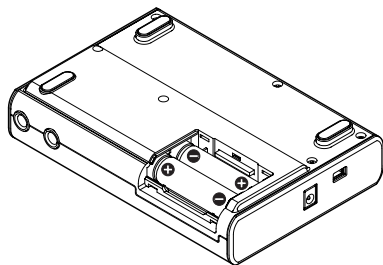
本機の電源がオンのときにSDカードを取り出さないでください。
カードを取り出すときは必ず電源をオフしてからカードを取り出してください。

電源がオンのときにSDカードを取り出すと、前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。

メモ

新しいSDカード、あるいは本機以外の機器で使用していたSDカードをセットした場合は、フォーマットを促す画面が表示されます。

2. 下図のように電池ボックス内の⊕と⊖の表示に合わせて、単三電池を4本セットします。本機はアルカリ乾電池の他にニッケル水素電池も使用することができます。



ヒント

別売のACアダプタ (PS-P520) を使って電源を供給することもできます。(→ 36 ページ 「別売のACアダプターを接続する」)

注意

- 電源がオンのときに電池を外したり電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。
前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。
 - 付属のアルカリ乾電池は動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。
- SDカードと電池をセットした後、電池ケースの蓋を閉じます。
 - 本機の Ω /LINE OUT 端子にヘッドホンを接続します。



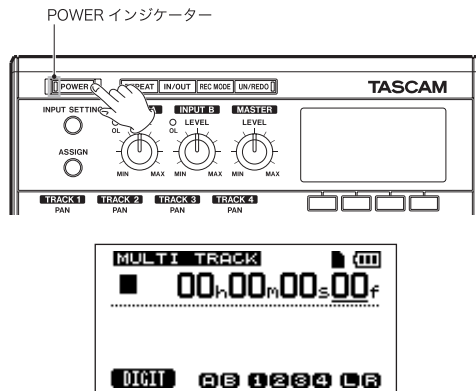
注意

音量調整つまみは小さく、目盛は付いていません。電源を入れる前には必ず矢印の方向に止まるまで回して音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヒント

アンプまたはアンプ内蔵スピーカーを接続することにより、スピーカーを使ってモニターすることもできます。

- トップパネルのPOWERキーを押し続け、"TASCAM"が表示されたら(あるいはPOWERキーのインジケーターが緑色に点灯したら)離します。
本機が起動して、ディスプレイに以下の画面(ホーム画面)が現れます。

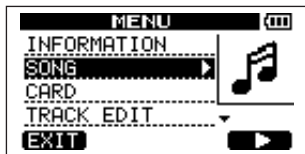


第2章 クイックスタートガイド

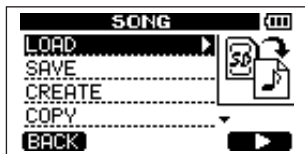
デモソングを聴く

本機に付属のSDカードには、あらかじめデモソングが録音されています。このデモソングを使って、再生、ミキシングの基本を体験してみましょう。

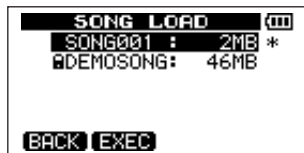
1. ホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。



2. DATAホイールを使ってSONG項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押してSONGメニュー画面を表示します。



3. DATAホイールを使ってLOAD項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押してSONG LOAD画面を表示します。
ソングリストが表示されます。



4. DATAホイールを使って"DEMOSONG"を反転表示し、F2 (EXEC) キーを押します。

デモソングがロードされ、SONGメニュー画面に戻ります。

5. HOMEキーを押します。

ディスプレイがホーム画面に戻ります。



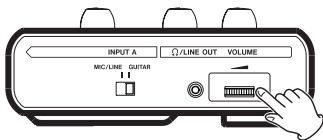
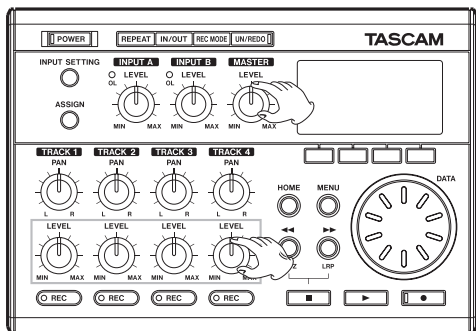
6. 再生 (▶) キーを押して、TRACK 1~4のLEVELつまみ(1~4)、MASTER LEVELつまみ、VOLUMEダイヤルを上げていくと、デモソングが聞こえてきます。

MASTER LEVELつまみはトラック1~4の音量をまとめて調節します。

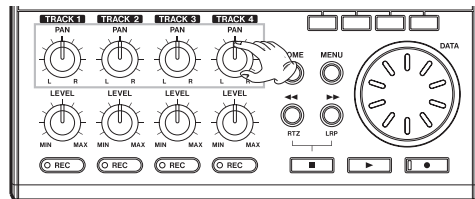
MASTER LEVELつまみは2~3時の位置が標準位置です。

TRACK 1~4のLEVELつまみを使ってトラック間のバランスを調節します。

最終的なモニター音量はVOLUMEダイヤルを使って調節します。



7. TRACK 1～4のPANつまみを使って、各トラック信号のステレオ定位を設定することができます。



終了する

作業が終わったら本機を終了します。

なお、このまま以下に述べるクイックスタートガイド2に進む場合は終了しないでください。

1. **POWER**キーを押し続け、ディスプレイに"**POCKETSTUDIO**"が表示されたら離します。
本機が自動的にシャットダウン動作（今まで操作した各種情報の記録）を行った後、電源がオフになります。

注意

電源がオンのときに電池を外したり電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。

前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。

第2章 クイックスタートガイド

クイックスタートガイド2 (録音からマスタリング)

マルチトラックレコーディングを体験してみましょう。以下の例では、エレキギターを使ってリズムギターパートをトラック1、リードギターパートをトラック2に録音した後、内蔵マイクを使って歌をトラック3に録音し、ミックスダウンを行うまでの手順を説明します。

なお、上記の「クイックスタートガイド1 (再生とミキシング)」に従って、本機にはすでにモニター機器が接続され、本機が起動し、SDカードがセットされていることを前提にします。

ヒント

以下の例では内蔵マイクを使って歌を録音しますが、リアパネルの **INPUT A** または **INPUT B** 端子に外部マイクを接続して録音することもできます。

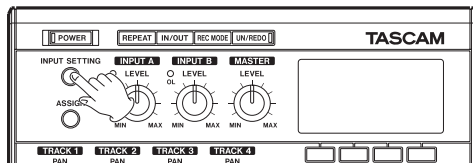
入力ソースを接続、設定する

1. リアパネルの **INPUT A** 端子にエレキギターを接続します。
2. 左サイドパネルの **MIC/LINE - GUITAR** 切換スイッチを **GUITAR** 側に設定します。

ヒント

プリアンプ内蔵のエレアコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にはエフェクターなどを接続する場合は、**MIC/LINE - GUITAR** 切換スイッチを **MIC/LINE** 側に設定します。

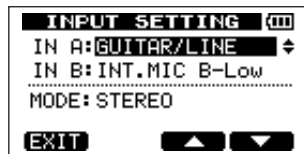
3. **INPUT SETTING** キーを押して、**INPUT SETTING** 画面を表示します。



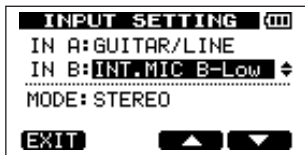
この画面で **INPUT A** チャンネルおよび **INPUT B** チャンネルの入力ソースを選択します。

最初の状態では **IN A** (**INPUT A** チャンネル) の現在の入力ソースが反転表示されています。

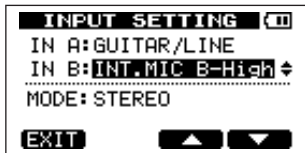
4. **DATA** ホイールを使って、**IN A** の入力ソースを **GUITAR/LINE** にします。



5. F4 (▼) キーを押して **IN B** (INPUT Bチャンネル) の現在の入力を反転表示します。



6. DATA ホイールを使って、**IN B**の入力ソースを**INT.MIC B-Low**、**INT.MIC B-Mid**または**INT.MIC B-High**にします。
これで、フロントパネルの右側の内蔵マイクである**MIC B**が**INPUT B**チャンネルの入力ソースになります。



メモ

INT.MIC B-Low、**INT.MIC B-Mid**、**INT.MIC B-High**では、内蔵マイクの感度が異なります。入力の大きさに応じて選択を行います。どれにしたらよいかわからない場合は**INT.MIC B-Low**を選択してください。そして入力レベル調整時に十分なレベルが得られない場合は、再びこの画面に戻って**INT.MIC B-Mid**に切り換えてください。それでも十分な入力レベルが得られないときは、**INT.MIC B-High**に切り換えてください。

7. 設定を終えたら**HOME**キーを押します。
ディスプレイがホーム画面に戻ります。

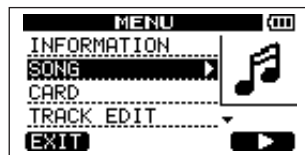
メモ

INPUT SETTING画面には、もうひとつ**MODE**項目があり、この項目を使って入力モニターモードを設定します。**"STEREO"**モードのとき、**INPUT A**チャンネル、**INPUT B**チャンネルの入力信号がそれぞれL、Rチャンネルから聞こえます。
"MONO × 2"モードのとき、それぞれの入力信号が両チャンネルから聞こえます。

ソングをロードする

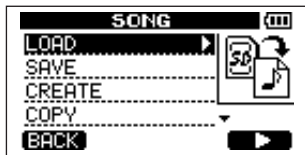
曲を録音するための「ソング」をロードします。
デモソングを聞いた後、以下の操作で**SONG001**をロードします。

1. ホーム画面表示中、**MENU**キーを押して**MENU**画面を表示します。

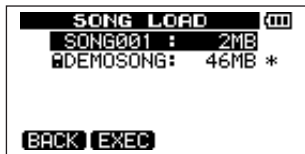


第2章 クイックスタートガイド

2. DATA ホイールを使って **SONG** 項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押して **SONG** メニュー画面を表示します。



3. DATA ホイールを使って **LOAD** 項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押して **SONG LOAD** 画面を表示します。
ソングリストが表示されます。



4. DATA ホイールを使って "SONG001" を反転表示し、F2 (EXEC) キーを押します。

何も記録されていないソングがロードされ、**SONG** メニュー画面に戻ります。

5. HOME キーを押します。

ディスプレイがホーム画面に戻ります。

ギターをトラック1の録音ソースにする

初期設定では、トラック1、3の録音ソースは **INPUT A** チャンネル、トラック2、4の録音ソースは **INPUT B** チャンネルに設定されています。上記(「入力ソースを接続、設定する」)の入力設定で、**INPUT A** チャンネルの入力ソースをギター、**INPUT B** チャンネルの入力ソースを内蔵マイク (**MIC B**) に設定しましたので、この状態で、ギターをトラック1、3、**MIC B** をトラック2、4に録音することができます。

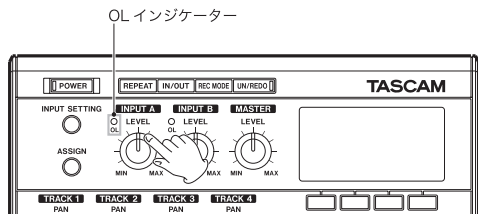
したがってこの手順例では、入力チャンネルのアサイン設定を変えずにギターをトラック1に録音することができます。

各トラックの録音ソースを変更する手順については、「録音を重ねる(1)」(21ページ)、「録音を重ねる(2)」(22ページ)をご覧ください。

入力レベル調整とモニター

INPUT A チャンネルの **LEVEL** つまみを使って、ギターの入力レベルを調整します。

いちばん大きい音のときに **INPUT A** チャンネルの **OL** インジケーターが点灯しないように **LEVEL** つまみを設定します。 **LEVEL** つまみを下げても **OL** インジケーターが点灯する場合は、ギター信号自体が大きすぎますので、ギターの出力レベルを下げてください。



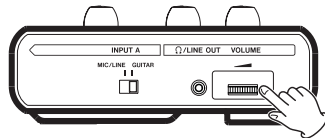
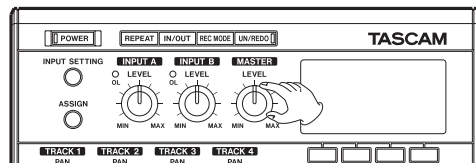
ギターを弾くと、ディスプレイの "A" メーターに入力レベルが表示されます。



MASTER LEVEL つまみと VOLUME ダイアルを上げると、ヘッドホンの L チャンネルからギターの声が聞こえ、ディスプレイ右側の "L" メーターが振れます。

メモ

INPUT SETTING 画面の MODE 項目をモノラルモード ("MONO x2") に変更すると、ギターの声が L、R 両チャンネルから聞こえ、L、R 両方のメーターが振れます。(→ 54 ページ「入力信号のモニターについて」)



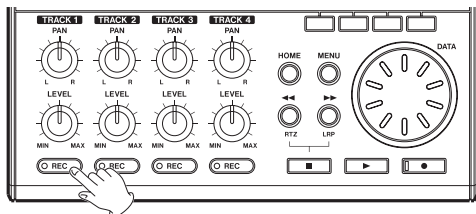
メモ

入力ソースが内蔵マイクの場合、内蔵マイクを録音ソースにしているトラックの REC インジケータが消灯しているときは入力が聞こえません。

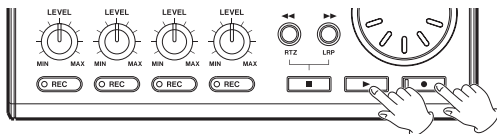
第2章 クイックスタートガイド

トラック 1 にギターを録音する

1. トラック 1 の REC キーを押します。
REC インジケータが点滅し、録音待機状態になります。

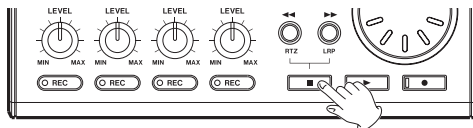


2. 録音 (●) キーを押しながら再生 (▶) キーを押して録音を開始し、ギターを演奏します。



トラック 1 の REC インジケータが点滅から点灯に変わります。

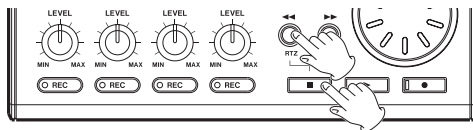
3. 演奏が終わったら停止 (■) キーを押して録音を停止します。



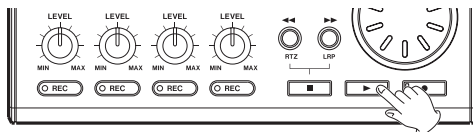
4. トラック 1 の REC キーを押して REC インジケータを消灯します。

聴いてみる

1. レコーダーを頭に戻すには、停止 (■) キーを押しながら ◀◀ キーを押します (RTZ = Return To Zero 機能)。



2. 再生 (▶) キーを押して、録音したトラックを再生します。



3. トラック 1 の LEVEL つまみと MASTER LEVEL つまみをを使って、再生モニターレベルを調節します。最終的なモニター音量は VOLUME ダイアルを使って調節します。

ヒント

トラック1のPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

- 録音したサウンドに満足できなかったら、レコーダーを頭に戻してから、上記「最初のトラックを録音する」の手順を初めから繰り返します。録音したサウンドが気に入ったら、次に進みます。

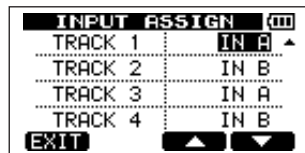
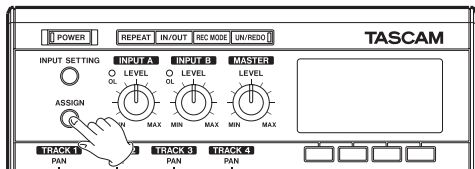
録音を重ねる (1) ～トラック2にギターを録音

トラック1のリズムギターを聞きながら、トラック2にリードギターを録音してみましょう。

この場合、以下の手順でトラック2の録音ソースを変更する必要があります。

1. ASSIGNキーを押します。

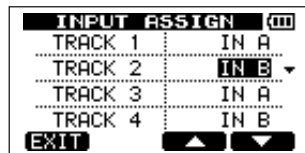
INPUT ASSIGN画面が表示されます。



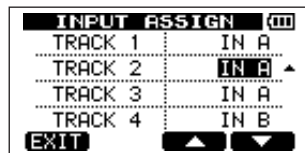
録音トラックごとに、録音ソースにする入力チャンネル (INPUT A または INPUT B) をアサインします。

初期設定ではトラック1と3の録音ソースとしてINPUT A、トラック2と4の録音ソースとしてINPUT Bがアサインされています。

2. F4 (▼) キーを使ってトラック2の現在の録音ソース (初期設定: IN B) を反転します。



3. DATAホイールを使って、IN Aに設定します。

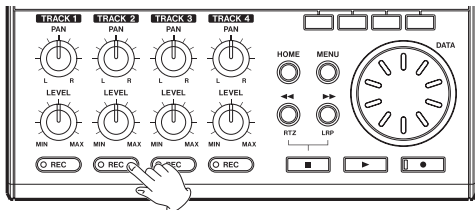


第2章 クイックスタートガイド

メモ

リードギターをトラック3に録音するのであれば、初期設定のまま
で録音ソースを変更する必要がありません。

- HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。
- トラック2のRECキーを押します。
RECインジケータが点滅し、録音待機状態になります。

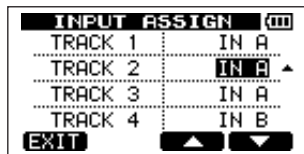
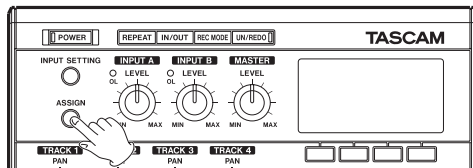


- (停止)キーを押しながらREWキーを押してレコーダーを頭に戻し、再生(▶)キーを押してレコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターに合わせて、リードギターを演奏してみます。ヘッドホンから、トラック1の再生音および入力しているギターが聞こえます。
- 必要に応じて、トラック1のLEVELつまみ、MASTER LEVELつまみ、VOLUMEダイヤルを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。

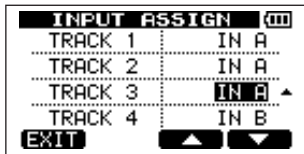
- レコーダーを頭に戻し、録音(●)キーを押しながら再生(▶)キーを押して録音を開始し、リードギターを演奏します。
録音(●)キーが赤く点灯し、トラック2のRECインジケータが点滅から点灯に変わります。
- 演奏が終わったら停止(■)キーを押して録音を停止します。
- トラック2のRECキーを押してRECインジケータを消灯します。

録音を重ねる(2)～トラック3にボーカルを録音

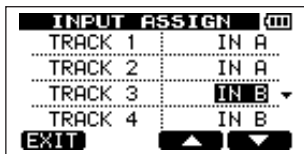
- ASSIGNキーを押します。
INPUT ASSIGN画面が表示されます。



2. F4 (▼) キーを使ってトラック3の現在の録音ソース（初期設定：IN A）を反転します。



3. DATAホイールを使って、IN Bに設定します。



メモ

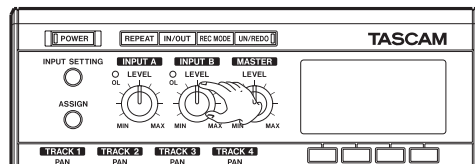
初期設定でトラック2と4の録音ソースとしてINPUT Bがアサインされていますので、ボーカルをトラック4に録音するのであれば、録音ソースを変更する必要がありません。

4. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。
5. トラック3のRECキーを押します。
RECインジケータが点滅し、録音待機状態になります。
6. INPUT BセクションのLEVELつまみを使って、マイクの入力レベルを適正に調整します。

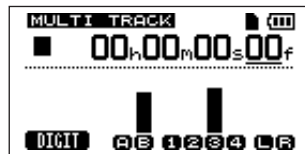
いちばん大きい音のときにINPUT BセクションのOLインジケータが点灯ないようにLEVELつまみを設定します。

メモ

LEVELつまみを下げてもOLインジケータが点灯する場合は、マイク信号自体が大きすぎます。このような場合、入力の選択がINT.MIC B-HighのときはINT.MIC B-MidあるいはINT.MIC B-Lowに、入力の選択がINT.MIC B-MidのときはINT.MIC B-Lowに切り換えてください。INT.MIC B-Lowに設定してもまだOLインジケータが点灯する場合は、音源をマイクから遠ざけるか、あるいは音源の音量を下げてください。

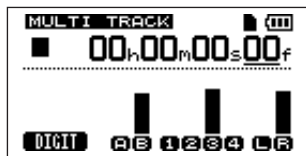
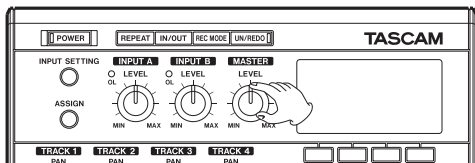


内蔵マイクのMIC Bに音を入れると、ディスプレイの"B"メーターに入力レベルが表示されます。



第2章 クイックスタートガイド

MASTER LEVELつまみとVOLUMEダイヤルが上がっている状態で、ヘッドホンからマイクの音が聞こえます。



注意

マイクを使う場合は、かならずヘッドホンを使ってモニターしてください。スピーカーを使ってモニターを行うとフィードバックを起こす可能性があります。また、正常な音で録音されません。

メモ

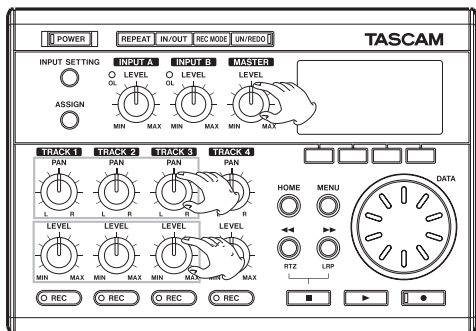
入力ソースが内蔵マイクの場合、内蔵マイクを録音ソースに設定しているトラックのRECインジケータが消灯しているときは入力が聞こえません。

7. (停止 ■) キーを押しながらREWキーを押してレコーダーを頭に戻し、再生 (▶) キーを押してレコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターとリードギターに合わせて、歌ってみます。ヘッドホンから、トラック1、2の再生および歌が聞こえます。
8. 必要に応じて、トラック1とトラック2のLEVELつまみ、MASTER LEVELつまみ、VOLUMEダイヤルを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。
9. レコーダーを頭に戻し、録音 (●) キーを押しながら再生 (▶) キーを押して録音を開始し、歌を歌います。録音 (●) キーが赤く点灯し、トラック3のRECインジケータが点滅から点灯に変わります。
10. 演奏が終わったら停止 (■) キーを押して録音を停止します。
11. トラック3のRECキーを押してRECインジケータ消灯します。

ミックスダウンする

録音が終わったら、ステレオにミックスダウンします。本機では、各ソングごとにステレオミックスを作成して保存することができます。

1. トラック1～3のLEVELつまみを使って、レベルとバランスを調節します。全体のレベルはMASTER LEVELつまみを使って調節します。また、トラックのPANつまみを使って、ステレオの定位を設定します。ディスプレイ右にあるL/Rメーターを監視しながら調節します。



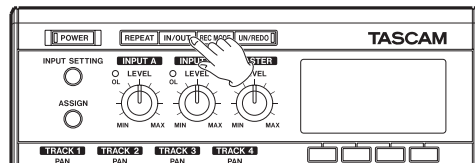
マスタリングする

ミックスしたサウンドをレコーディングして、ステレオマスターを作りましょう。この工程を本機ではマスタリングと呼びます。

ソングの頭 (00:00:00:00) から OUT 点までの範囲がステレオマスターになります。

最初に OUT 点を設定します。

1. IN/OUTキーを押してI/O SETTING画面を表示します。



2. ソングを再生し、ステレオマスターの終了点にしたい位置でF4キーを押します。

"SET OUT !" が表示されます。



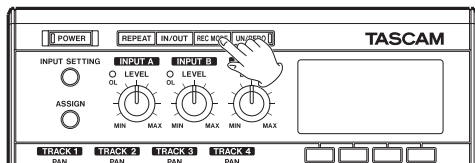
この位置が OUT 点として設定され、マスタリングの終了点になります。

ヒント

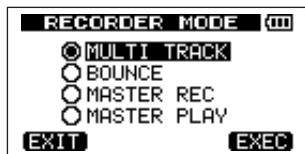
停止中にF4キーを押しても、OUT点を設定することができます。

第2章 クイックスタートガイド

- IN/OUTキー（またはHOMEキー）を押してホーム画面に戻ります。
- REC MODEキーを押します。



RECORDER MODE画面が表示されます。



- DATAホイールを使ってMASTER RECを反転表示します。
- F4 (EXEC) キーを押します。
本機がマスターレコーディングモードになり、ホーム画面に戻ります。



- 録音 (●) キーを押しながら再生 (▶) キーを押します。
ステレオマスターの録音が始まります。
OUT点まで来ると、自動的に録音を終了します。

メモ

録音中にLEVELつまみを使って各トラックのレベルや全体のレベルを変えることもできます。

- REC MODEキーを押します。
RECORDER MODE画面が表示されます。



- DATAホイールを使ってMASTER PLAYを反転表示します。
- F4 (EXEC) キーを押します。
本機がマスター再生モードになり、ホーム画面に戻ります。

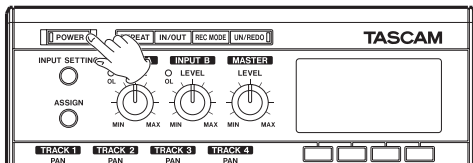


- この状態で再生 (▶) キーを押すと、作成したステレオマスターを聞くことができます。

終了する

作業が終わったら本機を終了します。

1. POWERキーを押し続け、ディスプレイに "POCKETSTUDIO" が表示されたら離します。



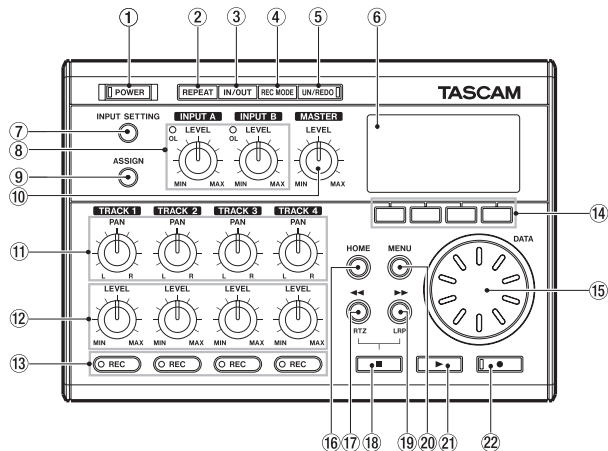
本機が自動的にシャットダウン動作（今まで操作した各種情報の記録）を行った後、電源がオフになります。

注意

終了するときは必ず上記の手順で正しく終了してください。
電池を外したり電源コードを抜くなどをして電源を切ると、前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。
なお、失われたデータや設定は復活することができません。

第3章 各部の名称と機能

トップパネル



① POWER キー／インジケータ

電源のオン／オフを行うときにこのキーを長押しします。(→ 36 ページ「起動と終了」)

電源がオンのときインジケータが点灯します。

② REPEAT キー

リピート再生モードのオン／オフを行うときにこのキーを押します。(→ 69 ページ「リピート再生」)

③ IN/OUT キー

リピート再生やトラック編集の始点 (IN 点) と終点 (OUT 点) を登

録するときに使います。(→ 69 ページ「IN / OUT ポイントを設定する」)

このキーを押すと I/O SETTING 画面が表示され、IN 点と OUT 点を登録することができます。なお、OUT 点はマスタリング時の終了点としても使われます。

④ REC MODE キー

レコーダーモードを設定するときに使います。このキーを押すと RECORD MODE 画面が表示され、MULTI TRACK、BOUNCE、MASTER REC、MASTER PLAY の中から選択することができます。(→ 43 ページ「レコーダーモード」)

メモ

本機では MULTI TRACK モードが標準モードです。これ以外のモード中は受け付けられない機能が多くあります。また、本機の電源をオンにしたとき、常に MULTI TRACK モードで立ち上がります。

⑤ UN/REDO キー／インジケータ

直前の操作の取り消し (シングルアンドゥ) およびシングルアンドゥの取り消し (リドゥ) を行うとき、このキーを押します。(→ 63 ページ「実行した操作を取り消す (アンドゥ)」)

停止 (■) キーを押しながらこのキーを押すと HISTORY 画面が表示され、この画面を使って、複数の操作を取り消すマルチアンドゥを実行することができます。シングルアンドゥまたはマルチアンドゥを実行して取り消した操作があるとき、UN/REDO インジケータが点灯します。

⑥ LCDディスプレイ

ホーム画面、各種メニュー画面、ポップアップメッセージなどを表示します。(→ 38 ページ「ディスプレイ画面」)

PREFERENCE 画面を使ってディスプレイのコントラストを調節することができます。(→ 45 ページ「コントラストを調整する」)

⑦ INPUT SETTING キー

入力ソースを選択するときに使います。このキーを押すとディスプレイに **INPUT SETTING** 画面が表示されます。(→ 53 ページ「入力ソースを選択する」)

⑧ 入力チャンネル用 LEVEL つまみ / OL インジケーター (INPUT A、INPUT B)

LEVEL つまみを使って、**INPUT A**、**INPUT B** チャンネルそれぞれの入力レベルを調節します。(→ 57 ページ「レコーディング (最初の録音)」)

入力ソースの信号が大きすぎると **OL** インジケーターが点灯します。また **LEVEL** つまみを上げすぎると (2~3 時位置以上に設定すると)、入力ソース信号の大きさが適正であっても **OL** インジケーターが点灯する場合があります

⑨ ASSINGN キー

各トラックに入力チャンネル (**INPUT A**、**INPUT B**) をアサインするときに使います。このキーを押すとディスプレイに **INPUT ASSIGN** 画面が表示されます。アサインされた入力チャンネルの入力信号が録音ソースになります。(→ 56 ページ「入力チャンネルをアサインする」)

⑩ MASTER LEVEL つまみ

ステレオ出力信号のモニターレベルを調節します。パウンス時やミックスダウン時やマスタリング時には録音レベルを調節します。

⑪ PAN つまみ (TRACK 1 ~ TRACK 4)

各トラック再生信号のステレオミックスにおける定位を調節します。(→ 60 ページ「定位 (パン)」)

⑫ LEVEL つまみ (TRACK 1 ~ TRACK 4)

各トラック再生信号のレベルを調節します。(→ 59 ページ「レベルとバランス」)

⑬ REC キー / インジケーター (TRACK 1 ~ TRACK 4)

REC キーを押すとトラックが録音待機状態になります (**REC** インジケーター点滅)。録音待機状態のときに **REC** キーを押すと録音待機が解除されます。録音待機状態のときに **録音 (●)** キーを押しながら **再生 (▶)** キーを押すと、録音待機状態のトラックの録音が始まります (**REC** インジケーター点灯)。

⑭ ファンクションキー

画面によって機能が変わるキーです。ディスプレイ表示画面の下部に表示中の機能が現在割り当てられている機能です。

メモ

本取扱説明書では便宜上、4つのファンクションキーを左から順に **F1**、**F2**、**F3**、**F4** キーという名前で表記します。また、ディスプレイ上に表示される機能を、キー名の後ろにカッコ付きで表記する場合があります。例：**F4 (▶)** キー、**F2 (EXEC)** キー。

第3章 各部の名称と機能

⑮ DATA ホイール

メニュー操作中、パラメーターの値を変えたり項目を選択するときに使います。

また、停止中でホーム画面表示中、カウンター値を変えることによりレコーダーの位置を移動することができます。(→ 68 ページ「ダイレクトロケート機能」)

⑯ HOME キー

このキーを押すと、ホーム画面が表示されます。

⑰ ◀◀ キー / RTZ キー

停止中や再生中にこのキーを押すと早戻しを行います。押すたびにスピードが 10 倍→50 倍→100 倍→1,000 倍と変化します。

停止 (■) キー を押しながらこのキーを押すと、ソングの先頭 (00:00:00:00) にロケートします。(→ 68 ページ「ロケート / サーチ機能」)

⑱ 停止 (■) キー

再生、録音、早送り / 早戻しを停止するときにこのキーを押します。また、◀◀ キーや ▶▶ キーとの同時押しによって、ソングの先頭 (RTZ)、あるいは最後に録音を始めた位置 (LRP) にロケートすることができます。(→ 68 ページ「ロケート / サーチ機能」)

⑲ ▶▶ キー / LRP キー

停止中や再生中にこのキーを押すと早送りをを行います。押すたびにスピードが 10 倍→50 倍→100 倍→1,000 倍と変化します。

停止 (■) キー を押しながらこのキーを押すと、最後に録音を始めた位置 (LRP) にロケートします。(→ 68 ページ「ロケート / サーチ機能」)

⑳ MENU キー

このキーを押すと、MENU 画面が表示されます。

㉑ 再生 (▶) キー

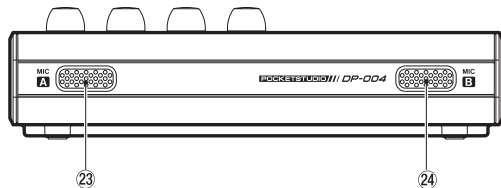
再生を始めるとき、このキーを押します。また、録音を始めるとき、**録音 (●) キー** を押しながらこのキーを押します。録音中にこのキーを押すと、録音を終了して再生になります (パンチアウト)。

㉒ 録音 (●) キー / インジケーター

録音を始めるとき、このキーを押しながら**再生 (▶) キー** を押します。録音中、インジケーターが点灯します。

また、いずれかのトラックの**REC** インジケーターが点滅しているとき、再生中にこのキーを押すと録音が始まります (パンチイン)。(→ 66 ページ「パンチイン / アウト」)

フロントパネル



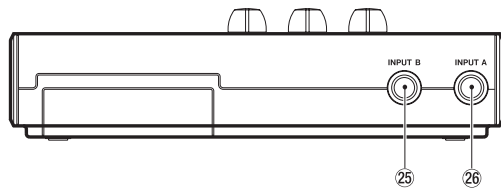
②③ MIC A

内蔵の無指向性マイクです。INPUT Aチャンネルの入力として内蔵マイク (INT.MIC A-Low、INT.MIC A-Mid、INT.MIC A-High) を選択したときの入力ソースになります。

②④ MIC B

内蔵の無指向性マイクです。INPUT Bチャンネルの入力として内蔵マイク (INT.MIC B-Low、INT.MIC B-Mid、INT.MIC B-High) を選択したときの入力ソースになります。

リアパネル



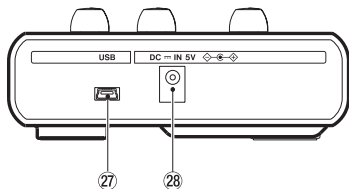
②⑤ INPUT B 端子

INPUT SETTING画面で、INPUT Bチャンネルの入力としてライン (LINE) または外部マイク (MIC) を選択したときの入力ソースになります。アンバランスのラインまたはマイクを入力することができます。

②⑥ INPUT A 端子

INPUT SETTING画面で、INPUT Aチャンネルの入力としてギター/ライン (GUITAR/LINE) または外部マイク (MIC) を選択したときの入力ソースになります。アンバランスのギター、ラインまたはマイクを入力することができます。入力ソースに応じて左サイドパネルのMIC/LINE - GUITARスイッチを設定します。

右サイドパネル



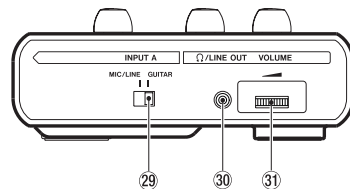
②7 USBポート

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します。パソコンとのファイル共有や、インポート、エクスポート、ソングデータのバックアップが可能です。(→ 87ページ「パソコンと接続する」)

②8 DC IN 5Vジャック

別売の専用ACアダプター(PS-P520)を接続します。

左サイドパネル



②9 MIC/LINE - GUITARスイッチ

リアパネルのINPUT A端子に入力する信号ソースに合わせて設定します。マイクやライン信号を入力するときは**MIC/LINE**ポジション、エレキギターやエレキベースを直接入力するときは**GUITAR**ポジションに設定します。

③0 Ω/LINE OUT端子

この端子(ステレオミニジャック)にヘッドホンまたはアンプ/モニターシステムを接続することにより、ステレオバス信号をモニターすることができます。メトロノーム動作中はメトロノーム信号をモニターできます。

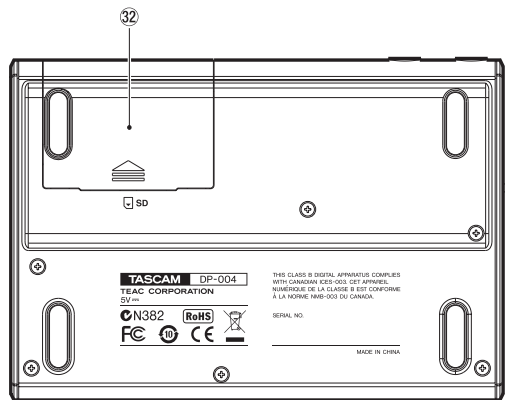
③1 VOLUMEダイヤル

Ω/LINE OUT端子の出力ボリュームを調節します。

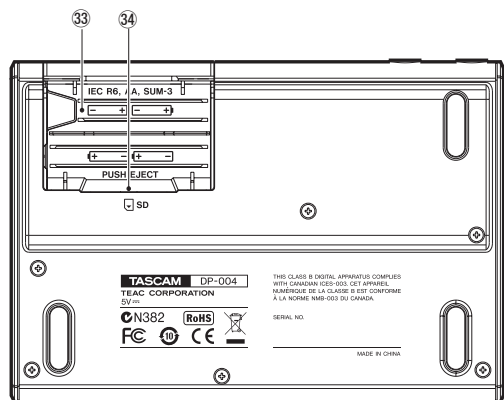
注意

音量調整つまみは小さく、目盛は付いていません。電源を入れる前には必ず矢印の方向に止まるまで回して音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ボトム



③② 電池ボックス蓋



[電池ボックス蓋を外した状態]

③③ 電池ボックス

本機の電源になる電池（単三電池、4本）を取納するボックスです。奥にSDカードスロットがあります。

③④ SDカードスロット

SDカードをセットするスロットです。

第4章 準備

SDカードと電源の準備

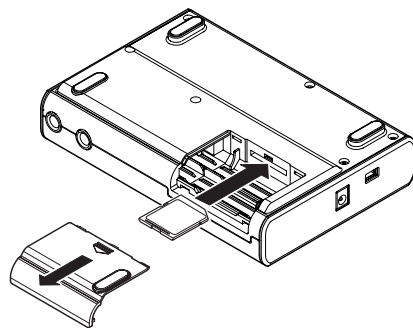
SDカードをセットする

本機はSDカードを使って録音／再生を行います。

- 使用できるSDカードはSD、SDHC規格に対応したカードです。
- 512MB以上のカードをお使いください。
- タスカムのウェブサイトには、当社でテスト済のSDカードのリストが掲載されています。(http://www.tascam.jp/)

本機のボトムの電池ボックス内部にSDカードスロットがあり、ここにSDカードをセットします。

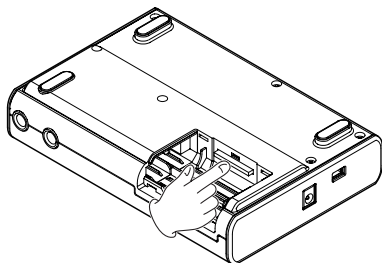
1. 電池ボックスの蓋を開けます。電池が入っている場合は本体の電源が切れていることを確認してから電池を取り出します。
2. 奥のSDカードスロット部にSDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



3. カードをセットしたら、蓋を閉めます。
電池を入れる場合は、電池を入れてから蓋を閉めます。

* カードを取り出すには：

セットされているカードを奥に押すと手前に出てきます。

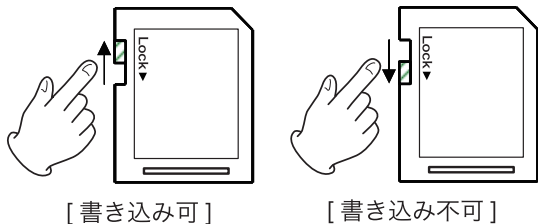


注意

電池やSDカードを取り出す場合は、必ず電源をオフしてから行ってください。電源がオンのときに取り出すと、前回の終了処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定がすべて失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。

メモ

プロテクトされているSDカードをセットすると、録音や編集ができません（再生はできます）。

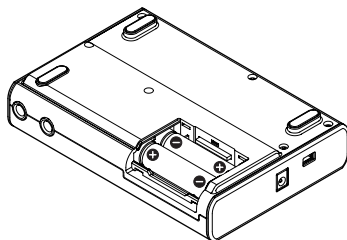
**電源を準備する**

単三電池または別売の電源アダプターを使って本機に電源を供給します。本機はアルカリ乾電池の他にニッケル水素電池も使用することができます。

電池をセットする

上項の「SDカードをセットする」で述べたように本機のボトムに電池ボックスがあります。

この中に単三電池4本を電池ボックス内の⊕と⊖の表示に合わせてセットします。

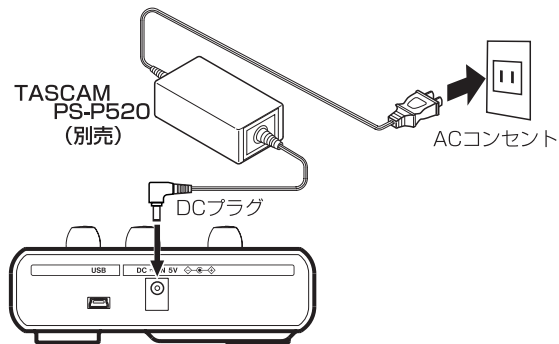
**注意**

付属のアルカリ乾電池は動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。

第4章 準備

別売のACアダプターを接続する

別売のACアダプター（PS-P520）を使う場合、アダプターと本機、電源コードと電源アダプター、電源コードとコンセントをそれぞれ接続します。



メモ

電池とACアダプターの両方をセットした場合、ACアダプターから電源が供給されます。

起動と終了

起動する

トップパネルのPOWERキーを押し続け、「TASCAM」が表示されたら（あるいはPOWERキーのインジケーターが緑色に点灯したら）離します。

本機が起動して、ディスプレイに以下の画面（ホーム画面）が現れます。



[起動画面]



[HOME画面]

起動時のレコーダーモードは、(前回終了時のレコーダーモードにかかわらず)常に**MULTI TRACK**モードです。(→43ページ「レコーダーモード」)

注意

本機の電源のオン/オフ操作は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。また、電源オン/オフ操作時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによってスピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

終了する

本機を終了するには、あらかじめ以下の準備を行います。

- レコーダーを停止します。(再生中、録音中、早送り中などは本機を終了できません。)
- ディスプレイをホーム画面に戻します。
- パソコンとUSB接続している場合、パソコンから本機を正しい手順で取り出してからUSBケーブルを外します。

準備ができたら、以下の画面が表示されるまで(または**POWER**キーのインジケーターが点滅を始めるまで)**POWER**キーを押し続けます。



シャットダウン処理(今まで操作した各種情報の記録)が実行された後に、電源がオフになります。

メモ

レコーダーモードがどのモードであっても終了することができますが、次回電源をオンにしたときは、常に**MULTI TRACK**モードで立ち上がります。(→43ページ「レコーダーモード」)

注意

- 電源がオンのときに電池を外したり電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。
- 電源をオフにすると、現在ロードされているソングの操作履歴がすべて消去(クリア)されます。再度電源をオンにしたときは前回の電源オフ時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

SDカードを初期フォーマットする

新しいSDカードを使用するには、初期フォーマットが必要です。本機はSDカードをFATパーティションとMTRパーティションに分割します。SDカードの容量が大きい場合、複数のMTRパーティションに分割することもできます。

パーティションに関する詳しい説明は「第9章 SDカードの管理」(77ページ)をご覧ください。

メモ

付属のSDカードはフォーマット済みですので初期フォーマットする必要がありません。フォーマットを行うと、あらかじめ記録されているデモソングが消去されてしまいます。

新しいSDカードを本機に最初にセットすると、フォーマットを促す画面が表示されます。



メモ

本機以外の機器でフォーマットを行ったSDカードをセットした場合も、フォーマットを促す上記の画面が表示されます。

注意

フォーマットを実行すると他の機器で記録されたデータも全て消去されて復元できなくなりますのでご注意ください。

1. F3 (YES) キーを押します。

カード容量に応じて、標準的なパーティション設定でフォーマットが行われます。

フォーマットが正常に終了するとホーム画面が表示されます。

メモ

- フォーマットを実行しない場合は**F4 (NO)** キーを押します。
- カード容量によっては、あとからパーティション設定を変更できる場合があります。その場合、**CARD**メニューの**FORMAT**項目でパーティションサイズを設定してからフォーマットを行います。(→ 77ページ「第9章 SDカードの管理」)

ディスプレイ画面

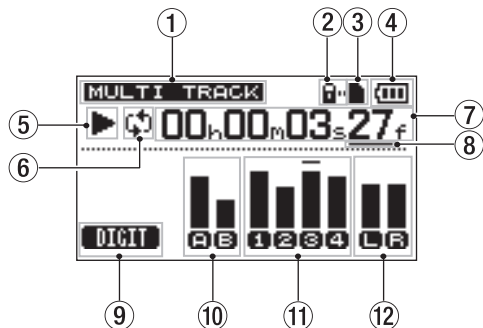
本機のディスプレイにはレコーダーの状態を示す「ホーム画面」と、設定や機能実行を行う各種画面があります。

ホーム画面

本機のディスプレイの基本画面は以下のような「ホーム画面」です。ホーム画面表示中に、録音や再生を行います。

本機の電源をオンにすると、起動完了後にホーム画面が表示されます。

このときのレコーダーモードは常にMULTI TRACKモードです。(→43ページ「レコーダーモード」)
他の画面を表示中、HOMEキーを押すと、ホーム画面に戻ります。





① レコーダーモード

現在のレコーダーモードを表示します。

② SDカードプロテクト表示





SDカードがプロテクトされているときに点灯します。


③ SDカードの有無

SDカードがセットされているときに  を表示します (セットされていないときは  を表示)。

④ 電源状態表示

電池駆動時は、電池アイコンを表示します。

電池残量に応じて目盛りが表示されます (, , )。目盛り表示がなくなると 、電池切れのためにまもなく電源がオフになります。

別売のACアダプター使用時は  を表示します。

⑤ レコーダーのトランスポート状態

再生時は 、停止時は 、録音時は  を表示します。

⑥ リピート再生モード

リピート再生モード中、 を表示します。

⑦ レコーダーのタイムカウンター

ソングの先頭からの経過時間を表示します。

⑧ 時間編集対象桁を示すカーソルキー

DATAホイールを回すと、カーソル位置の時間桁の値が変わります。

⑨ F1キーのモード表示

ホーム画面表示中、F1キーを押すと、タイムカウンターのカーソル位置が移動します。

⑩ 入力チャンネルA、Bのレベルメーター

それぞれINPUT A、INPUT Bの入力ソースの信号レベルを表示します。

⑪ レコーダートラック1～4のレベルメーター

録音時は入力(録音)信号、再生時は再生信号のレベルを表示します。

⑫ ステレオ出力(L、R)のレベルメーター

Ω/LINE OUT端子からの出力信号レベルを表示します。

画面構成

本機では、ディスプレイを使って、さまざまな設定や機能実行、あるいは情報表示を行います。

各操作画面には、ホーム画面表示中に**MENU**キーを押して**MENU**画面経由でアクセスするものと、専用キーからアクセスするものがあります。以下に画面構成をまとめます。

MENU キーから MENU 画面経由でアクセス

- **INFORMATION** 画面
- **SONG** メニュー画面
- **CARD** メニュー画面
- **TRACK EDIT** メニュー画面
- **WAVE** メニュー画面
- **DATA BACKUP** メニュー画面
- **TUNER** 画面
- **METRONOME** 画面
- **PREFERENCE** 画面

専用キーからアクセス

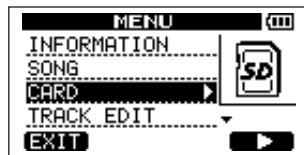
- **INPUT SETTING** 画面 (**INPUT SETTING** キー使用)
- **INPUT ASSIGN** 画面 (**ASSIGN** キー使用)
- **I/O SETTING** 画面 (**IN/OUT** キー使用)
- **RECORDER MODE** 画面 (**REC MODE** キー使用)
- **HISTORY** 画面 (**STOP** キー + **UN/REDO** キー)

画面操作

ホーム画面表示中に**MENU**キーまたは専用キーを使って画面を表示した後、**DATA**ホイールおよびディスプレイの下に並ぶ4つのファンクションキーを使って画面操作を行います。なお、再生中や録音中は、カードアクセスが発生する可能性のある画面を呼び出すことができません。このような画面を呼び出そうとした場合、"**Not Stopped**" がポップアップ表示されます。

画面内の下部にはファンクションキーに割り当てる機能が表示されます。なお、本取扱説明書では便宜上、ファンクションキーを左から順に**F1**、**F2**、**F3**、**F4**キーと表記します。

- 画面内で値の設定を行わない画面 (**MENU**画面など) 内で、項目を選択 (反転表示) するには、**DATA**ホイールを使います。

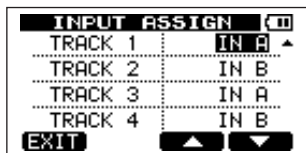


- サブ画面がある項目では右側に▶が表示されます。サブ画面に進むには画面下部の「▶」表示に対応するファンクションキーを押します。(上の**MENU**画面では、**F4**キーを押すとサブ画面に進みます。)
- 現在表示されているリストの上または (および) 下にも項目がある場合、画面の右下に▲または (および) ▼が表示されます。(上の**MENU**画面では、▼が表示され、**TRACK EDIT**の下にも項目があることを示しています。)

- 画面内で値の設定を行う場合、**DATA** ホイールを使って値を設定します。



- 手前の階層に戻るには、画面下部の「**BACK**」表示に対応するファンクションキーを押します。(上のTUNER画面では、F1キーを押すと手前の階層に戻ります。)
- 画面内に値を設定する項目が複数ある場合、画面下部の「**▲**」、「**▼**」表示に対応するファンクションキーを使って項目選択を行い、**DATA** ホイールを使って値を設定します。



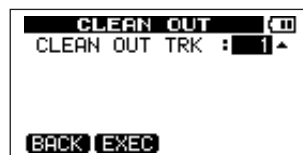
- 次の操作に進む場合、画面下部の「**NEXT**」表示に対応するファンクションキーを押します。



- 専用キーからアクセスした画面を抜ける時には「**EXIT**」表示に対応するファンクションキーを押します。

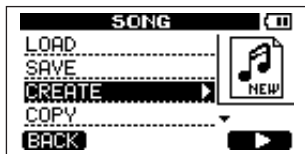


- 機能を実行するとき、「**EXEC**」表示に対応するファンクションキーを押します。

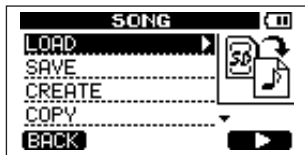


第4章 準備

- メニュー画面から一気にホーム画面に戻るには**HOME**キーを押します。メニュー操作を終えたら必ずホーム画面に戻すようにしてください。以下は**SONG**メニュー画面の例です。**SONG**メニューを表示するには上記のメインメニューで**SONG**を反転し、**F4 (▶)**キーを押します。



- **DATA** ホイールを使って、メニューから希望の項目を反転表示します。以下の例では**LOAD**が選択されています。また、画面右下の▼表示があることから、**COPY**項目の下には、他の項目が存在することがわかります。

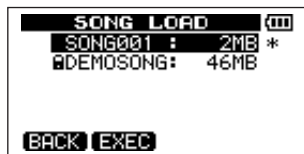


- **F4 (▶)**キーを押して、**LOAD**画面を表示します。以下は**LOAD**画面の例で、SDカード上に保存されているソングのリストが表示されます。

メモ

画面操作中、手前の画面に戻るには、**F1 (BACK)**キーを押します。

- ソングをロードするには、**DATA**ホイールを使って希望のソングを反転表示し、**F2 (EXEC)**キーを押します。



メモ

ディスプレイ内で「EXEC」が表示される位置は画面によって異なります。

名前の編集

ソングやエクスポートするファイルなどの名前(タイトル)の編集ができます。

以下の場合に名前の編集が可能な画面が表示されます。

ソングの保存、作成、名前編集

SONGメニューから**SAVE**、**CREATE**または**NAME EDIT**項目を選んで**F4 (▶)**キーを押します。(→ 46ページ「第5章 ソングの管理」)

マスタートラックのWAVファイルをエクスポートするとき

WAVEメニューからEXPORT MASTER項目を選んでF4 (▶) キーを押します。(→ 94 ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)

ソングをバックアップするとき

DATA BACKUPメニューからSONG BACKUP項目を選んでF4 (▶) キーを押してSONG BACKUP画面を表示し、この画面でソングを選んでF4 (NEXT) キーを押します。(→ 89 ページ「ソングをバックアップする」)

以下の要領で名前の編集を行います。

- ◀▶ / ▶▶ キーを使ってカーソル (下線) 位置を移動します。カーソル位置が編集位置になります。
- DATA ホイールを使ってカーソル (下線) 位置の文字を変更します。一般的な記号、数字、英大文字、英小文字を入力することができます。
- カーソル位置に空白を挿入するにはF3 (INS) キーを使います。ファイルの名前を編集中にはカーソル位置に "A" が挿入されます。
- カーソル位置の文字を削除するにはF4 (DEL) キーを押します。
- 入力/編集を終えたらF2 (EXEC) キーを押して、新しい名前を保存します。

レコーダーモード

本機には4つのレコーダーのモードがあります。

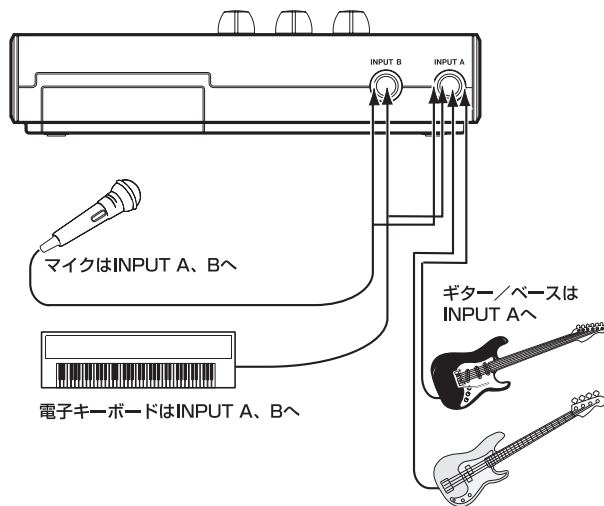
通常のモードはMULTI TRACKモードで、本機がマルチトラックレコーダーとして動作します。他のモードはBOUNCE、MASTER REC、MASTER PLAYの各モードで、それぞれトラックバウンス、マスターレコーディング、マスタートラック再生を行うときに使用します。トラックバウンスについては「トラックバウンス」(66ページ)、マスターレコーディングやマスタートラック再生については「マスタリング」(60ページ)をご覧ください。本機の電源を入れたときは常にMULTI TRACKモードで立ち上がります。

MULTI TRACKモード以外のモードのときは、画面を使った操作を受け付けられない場合が多くあります。

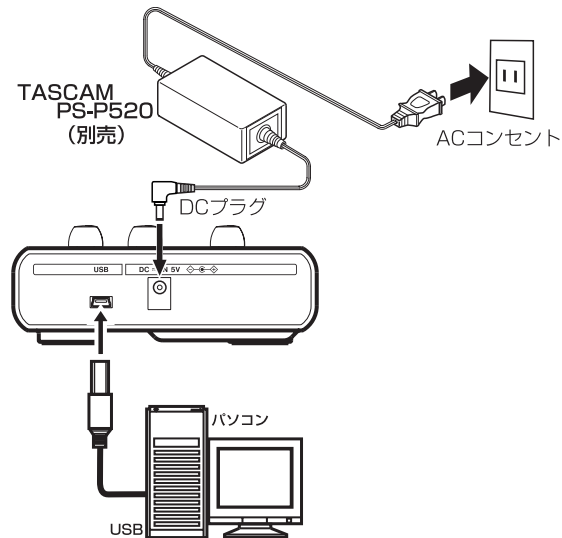
本取扱説明書の説明では、特に断りのない限り、レコーダーモードがMULTI TRACKモードであることを前提としています。

外部機器との接続

リアパネル



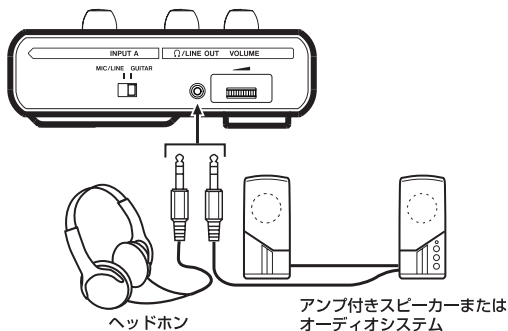
右サイドパネル



メモ

本機をパソコンとUSB接続しているときは、レコーダーとしての機能を使うことができません。

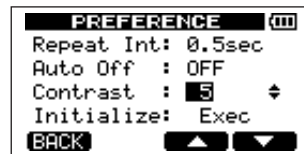
左サイドパネル



コントラストを設定する

LCDディスプレイのコントラストを調整することができます。
以下の手順でコントラストの調整を行います。

1. ホーム画面表示中、MENUキーを押します。
2. DATAホイールを使ってPREFERENCE項目を反転表示させ、F4 (▶) キーを押します。
PREFERENCE画面が表示されます。
3. F3 (▲) キー、F4 (▼) キーを使ってCONTRAST項目の設定値を反転表示し、DATAホイールを使ってディスプレイのコントラストを調整します。



選択肢は "1" ~ "10" です。数値が小さいほど表示が薄く、大きいほど濃くなります。

ディスプレイは見る角度によって見えかたが変わります。コントラストを調整することで見えやすくなる場合がありますので、本機を使用するポジションで実際の表示を見ながら調整してください。

第5章 ソングの管理

本機はソングと呼ばれる単位でデータを管理します。通常、曲ごとにソングを割り当てます。作業を行うときは、まず初めに希望のソングをロードします（既存のソングをロードするか、あるいは新たなソングを作成）。ソングには録音したマルチトラック（トラック1～4）のオーディオデータが保存されるだけでなく、作成したステレオマスターミックスも保存されます。

本章では、SDカード内のパーティションの説明に始まり、ソングのロード方法や新しいソングの作成手順といった基本操作から、各種のソング管理機能までを説明します。

SDカードの管理の詳細については「第9章 SDカードの管理」（77ページ）をご覧ください。

パーティションとソング

ソングのデータの記録先はSDカードです。本機でフォーマットされたSDカードは、パーティションに仕切られています。

パーティションには、ソングデータを記録するための「MTRパーティション」と、パソコンからの読み込みが可能な「FATパーティション」があります。また、容量の大きいSDカードの場合、複数のMTRパーティションが作成される場合があります。

本機で録音、再生、編集などレコーダー操作を行うには、作業対象のMTRパーティション（アクティブパーティションと呼びます）を選択し、その中のソングをロードするか、あるいは新たにソングを作成します。

アクティブパーティションを変更する

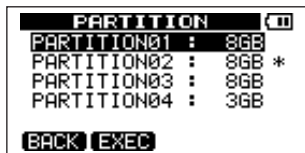
現在のアクティブパーティション以外のMTRパーティション上のファイルを使って作業を行ったり、新規のファイルを別のMTRパーティション上に作成するには、アクティブパーティションを変更する必要があります。

以下の操作は、複数のMTRパーティションが存在するSDカードがセットされていることを前提としています。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU**キーを押して**MENU**画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って**CARD**を反転表示し、**F4 (▶)**キーを押します。
CARDメニュー画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って**PARTITION**を反転表示し、**F4 (▶)**キーを押します。
PARTITION画面に進み、MTRパーティションがリスト表示されます。



[パーティションがひとつだけの場合]



[パーティションが複数の場合]

アクティブパーティションの末尾には "*" が表示されています。
また、表示されている容量はパーティションのサイズです（空き容量ではありません）。

4. DATA ホイールを使って希望のパーティションを選択し、F2 (EXEC) キーを押します。

確認メッセージ ("Are you sure?") が表示されます。



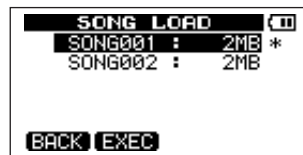
5. F3 (YES) キーを押します。

現在作業中のソングが保存された後、アクティブパーティションが変更されます。
そして変更後のパーティションで前回最後に作業を行ったソングがロードされます。

ソングをロードする

以下の手順で、アクティブパーティション上の希望のソングをロードします。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENU キーを押して MENU 画面を表示します。
2. DATA ホイールを使って SONG を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
3. DATA ホイールを使って LOAD を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
SONG LOAD 画面に進み、パーティション内のソングがリスト表示されます。現在ロード中のソングの末尾には "*" が付いています。



4. DATA ホイールを使って希望のソングを反転表示し、F2 (EXEC) キーを押します。
現在ロード中のソングが保存され、選択したソングがロードされます。

新しいソングを作成する

以下の手順で、アクティブパーティション上に新規のソングを作成します。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU** キーを押して **MENU** 画面を表示します。
2. **DATA** ホイールを使って **SONG** を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
3. **DATA** ホイールを使って **CREATE** を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
SONG CREATE 画面が表示されます。



作成されるソングには、デフォルトのソング名 "SONG****" (***) は番号。上の画面例では **SONG002** が付けられています。

4. 必要に応じて「名前の編集」(42 ページ) で述べた方法に従って、タイトル (ソング名) を付けます。

ヒント

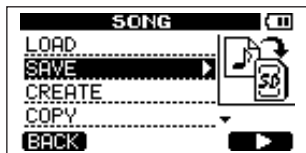
後からでも、**SONG** メニュー内の **NAME EDIT** 項目を使ってソングの名前を編集することができます。また、ソングを保存するときにもソング名を編集することができます。

5. **F2 (EXEC)** キーを押します。
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。

ソングを保存する

本機をシャットダウンするときや別のソングを呼び出すときなど、ソングが自動的に保存されますが、以下の手順でいつでもソングを保存することができます。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU** キーを押して **MENU** 画面を表示します。
2. **DATA** ホイールを使って **SONG** を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
3. **DATA** ホイールを使って **SAVE** を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。



SONG SAVE 画面が表示されます。



4. ソング名を変更したいときは変更してから (→ 42 ページ「名前の編集」) F2 (EXEC) キーを押します。そのまま保存するときは単に F2 (EXEC) キーを押します。

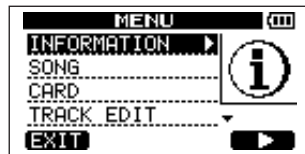
ソングの保存中は "Storing Song"、保存が終了すると "Save Complete" と表示された後、SONG メニュー画面に戻ります。

ソング情報を見る

現在ロード中のソングの名前、所属パーティション、録音残時間をチェックすることができます。

1. ホーム画面表示中、MENU キーを押して MENU 画面を表示します。

2. DATA ホイールを使って INFORMATION を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。



INFORMATION 画面の SONG ページに進み、カレントソングの名前と録音残時間が表示されます。



メモ

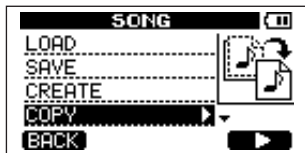
INFORMATION 画面には SONG、CARD、SYSTEM、F/W の 4 ページがあり、F3 (◀PREV) キー、F4 (NEXT) キーを使ってページを切り換えます。(→ 75 ページ「情報を見る」)

ソングをコピーする

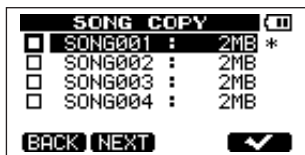
現在のアクティブパーティション内のソングを、同じパーティションまたは別の MTR パーティションにコピーすることができます。複数のソングをまとめて一括コピーすることもできます。

第5章 ソングの管理

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENU キーを押して MENU 画面を表示し
2. DATA ホイールを使って SONG を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
3. DATA ホイールを使って COPY を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。



SONG COPY 画面に進み、アクティブパーティション内のソングがリスト表示されます。



4. DATA ホイールを使ってコピーしたいソングを反転表示し、F4 (✓) キーを押します。
ソングがコピー元として選択され、チェックボックスがチェックされます。



メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態で F4 (✓) キーを押します。

5. 複数のソングをコピーする場合、手順4.を繰り返します。
6. コピーするソングをすべて選択したら、F2 (NEXT) キーを押します。
コピー先のパーティションを選択する画面が表示されます。

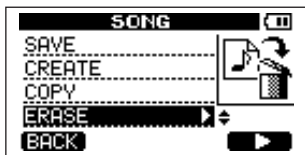


7. DATA ホイールを使ってコピー先パーティションを選択し、F4 (EXEC) キーを押します。
コピーが実行され、終了すると SONG メニュー画面に戻ります。
- ソングコピーをキャンセルしたいときは、F4 (EXEC) キーを押す代わりに F1 (BACK) キーを押します。

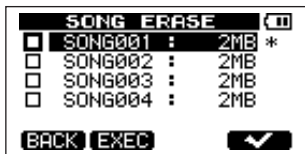
ソングを消去する

ソングを消去することができます。複数のソングをまとめて一括消去することもできます。メディアの空き容量が少なくなった場合、不要なソングを消去することをお勧めします。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENU キーを押して MENU 画面を表示します。
2. DATA ホイールを使って SONG を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
3. DATA ホイールを使って ERASE を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。



SONG ERASE 画面に進み、アクティブパーティション内のソングがリスト表示されます。



4. DATA ホイールを使って消去したいソングを反転表示し、F4 (✓) キーを押します。

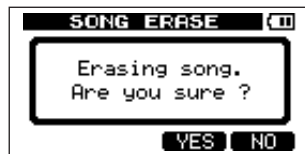
ソングのチェックボックスがチェックされます。



メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態で F4 (✓) キーを押します。

5. 複数のソングを消去する場合、手順4.を繰り返します。
6. 消去するソングをすべて選択したら、F2 (EXEC) キーを押します。
確認画面が表示されます。



7. F3 (YES) キーを押します。
消去が実行され、終了すると SONG メニュー画面に戻ります。

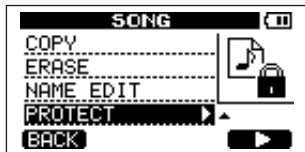
第5章 ソングの管理

- ソングの消去をキャンセルする場合は、F3 (YES) キーを押す代わりにF4 (NO) キーを押します。
- MTRパーティションには必ずソングが1つ以上存在します。したがって、すべてのソングを消去すると、新規のソングが1つ作成されます。

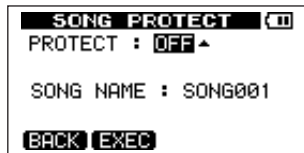
ソングをプロテクトする

ソングをプロテクトすることにより、そのソングに対する編集、録音、消去といった操作ができなくなります。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってSONGを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
SONGメニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使ってPROTECTを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。



プロテクトのオン/オフを設定するSONG PROTECT画面が表示されます。



4. DATAホイールを使ってPROTECTを"ON"に設定し、F2 (EXEC) キーを押します。
プロテクトがオンに設定されて、SONGメニュー画面に戻ります。
- コピー、削除などを行うときに表示されるソングリスト上では、プロテクトされたソングの脇に錠アイコンが付いています。
 - プロテクトされたソングに対して禁止操作（編集、録音、消去）を実行しようとする、ディスプレイに"Song Protected"と表示され、操作を受け付けません。
 - プロテクトされたソングのプロテクトを解除するには、上記の手順4.でPROTECTを"OFF"に設定します。

入力ソースを選択する

本機には2つの入力チャンネル（INPUT AおよびINPUT B）があり、それぞれ個別に入力ソースを選択することができます。

入力ソースには内蔵マイク（フロントパネルのMIC A、MIC B）または外部入力信号（リアパネルのINPUT A、INPUT B端子からの入力）を選択できます。INPUT Aチャンネルはマイク、ライン信号のほかにギターを入力することができ、左サイドパネルのMIC/LINE - GUITARスイッチで設定を行います。なお、内蔵マイク入力時は感度を選択することができます。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、INPUT SETTINGキーを押します。

INPUT SETTING画面が表示されます。



IN AとIN B項目で、INPUT AとINPUT Bチャンネルの入力ソースを設定します。

2. F3 (▲)、F4 (▼) キーを使ってIN AまたはIN Bの設定値を反転表示し、DATAホイールを使って入力ソースを選択します。

IN Aの選択肢

OFF：入力オフ

INT.MIC A-Low：内蔵マイクA（感度ロー）

INT.MIC A-Mid：内蔵マイクA（感度ミドル）

INT.MIC A-High：内蔵マイクA（感度ハイ）

GUITAR/LINE：ギターまたはライン（INPUT A端子経由）

MIC：マイク（INPUT A端子経由）

IN Bの選択肢

OFF：入力オフ

INT.MIC B-Low：内蔵マイクB（感度ロー）

INT.MIC B-Mid：内蔵マイクB（感度ミドル）

INT.MIC B-High：内蔵マイクB（感度ハイ）

LINE：ライン（INPUT B端子経由）

MIC：マイク（INPUT B端子経由）

3. 設定を終えたらHOMEキーを押してホーム画面に戻します。

4. 上記手順2.でINPUT Aの入力ソースをINPUT A端子経由のソースとして選択した場合、左サイドパネルのMIC/LINE - GUITAR切換スイッチを適切に設定します。

エレキギターやエレキベースを直接入力した場合、GUITAR側に設定します。

マイクやライン信号を入力した場合、MIC/LINE側に設定します。

第6章 基本レコーディング

ヒント

プリアンプ内蔵のエレアコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にはエフェクターなどを接続する場合は、**MIC/LINE - GUITAR** 切換スイッチを **MIC/LINE** 側に設定します。

入力信号のモニターについて

リアパネルの **INPUT A** 端子、**INPUT B** 端子からの入力を入力ソースに設定した場合、**REC** キーの設定にかかわらず、入力信号が常にステレオバスに送られますので、常に入力信号をモニターすることができます。フロントパネルの内蔵マイクを入力ソースに設定した場合、内蔵マイクを録音ソースにしているトラックの **REC** インジケータが点滅中（録音待機中）または点灯中（録音中）のみ入力信号がステレオバスに送られ、信号をモニターすることができます。**REC** インジケータが消灯しているときは入力をモニターできません。

メモ

INPUT A 端子、**INPUT B** 端子からの入力を入力ソースに設定した場合、レコーダー再生中は、再生信号と入力ソースの音のミックス信号が、**Ω/LINE OUT** 端子に接続したヘッドホンやモニターシステムから聞こえてきます。

モニターモードを設定する

INPUT A、**INPUT B** チャンネルの入力信号のモニターモードを設定することができます。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**INPUT SETTING** キーを押します。

INPUT SETTING 画面が表示されます。



2. **F3** (▲)、**F4** (▼) キーを使って **MODE** 項目の設定値を反転表示し、**DATA** ホイールを使って入力モニターモードを選択します。

MONOx2 : **INPUT A** および **INPUT B** 両チャンネルの入力信号が、モノラル信号として L/R 両チャンネルから聞こえます。

STEREO : **INPUT A** チャンネル、**INPUT B** チャンネルの入力信号がそれぞれ L、R チャンネルから聞こえます。

3. 設定を終えたら **HOME** キーを押してホーム画面に戻します。

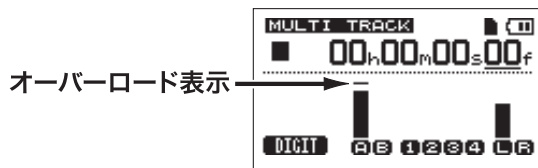
OLインジケータおよびメーターについて

INPUT セクションのOLインジケータとホーム画面のメーターによって、本機のオーディオのレベルをチェックすることができます。

メーターは信号のレベルを監視するためのものですが、本機に信号が入力されているかどうかをチェックするときにも使うことができます。たとえばモニターに何も聞こえない場合であっても、入力メーターが振れていれば本機には信号が入力されていることとなります。

下図のように、メーターの一番上に "—" が点灯する場合、レベルがオーバーロードに達しています ("—" 表示はしばらくホールドされた後、自動的に消えます)。この状態ではサウンドが歪んでいる可能性がありますので、"—" が点灯しないよう、レベルを下げてください。

OLインジケータが点灯する場合、入力ソース信号が大きすぎるか、あるいはLEVELつまみを上げすぎています。LEVELつまみを2〜3時以下に設定してもOLインジケータが点灯する場合、入力ソース信号が大きすぎますので、入力ソースの音量を下げてください。



入力メーター(A、B)

左の2本のメーターは本機の入力チャンネル (INPUT A と INPUT B) の入力レベルを表示します。

INPUT A、INPUT BのLEVELつまみ、または入力ソースの出力ボリュームを使ってレベルを調節します。

メモ

入力メーターが適切なレベルを示しているのに入力セクションのOLインジケータが点灯する場合、入力信号が大きすぎてサウンドが歪んでいます。

この場合、入力ソースの音量を下げてください。

トラックメーター(1〜4)

これらのメーターはトラックの再生信号レベルまたはトラック入力信号レベルを表示します。

トラックメーターは動作状態に応じて下記の信号のレベルを表示します。

- RECインジケータ消灯で再生時：トラック再生信号
- RECインジケータ点滅（録音待機）で再生時：トラック再生信号
- RECインジケータ点滅（録音待機）で停止時：トラック入力信号
- RECインジケータ点灯時（録音時）：トラック入力信号

メモ

再生信号表示時は、トラックに録音されている信号のレベルが表示されますので、メーターのレベルを変えることはできません。

入力信号表示時は、INPUT A、INPUT BのLEVELつまみによってメーター表示レベルが変わります。

第6章 基本レコーディング

ステレオメーター(L, R)

本機のステレオバス出力のレベルを表示します。出力レベルはMASTER LEVELつまみを使って調節します。

メモ

入力ソースが内蔵マイクの場合、内蔵マイクを録音ソースにしているトラックのRECインジケーターが消灯しているときはステレオバスに信号が送られないため、メーターが振れません。

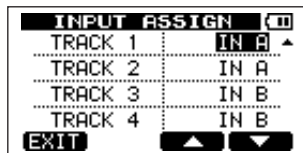
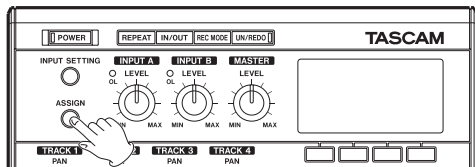
入力チャンネルをアサインする

本機において「入力チャンネルをアサインする」ということは、それぞれのトラックの録音ソースとしてどちらの入力チャンネル (INPUT A または INPUT B) 信号をアサインするかということです。

本機では同時に最大2トラックの録音が可能です。1つの入力チャンネルを2つのトラックに同時にアサインすることもできます (この場合はもう一方の入力チャンネルは使用できません)。2つの入力チャンネルを同じトラックにアサインすることはできません。

1. ASSIGNキーを押します。

INPUT ASSIGN画面が表示されます。

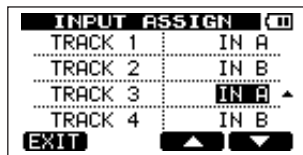


上図のように各トラック (1~4) ごとの録音ソースとなる入力チャンネルが表示されます。

初期設定では、トラック1と3の録音ソースとしてINPUT Aがアサインされ、トラック2と4の録音ソースとしてINPUT Bがアサインされています。

2. F3 (▲) キー、F4 (▼) キーを使って設定したいトラックの現在の入力チャンネルを反転します。

3. DATAホイールを使って、IN AまたはIN Bに設定します。



4. 設定を終えたらHOMEキーを押してホーム画面に戻します。

レコーディング（最初の録音）

以下に述べる録音操作は、すでに録音ソースを接続し、入力チャンネルをトラックの録音ソースとしてアサインし、モニター（ヘッドホン）をセットしていることを前提にしています。

1. 録音するトラックのRECキーを押します。

RECインジケータが赤く点滅します（この状態を「録音待機状態」と言います）。

同時に録音できるトラック数は最大2トラックです。

2つのトラックのRECインジケータが点滅しているときに別のRECキーを押すと、最初に押したトラックの録音待機状態が解除されてRECインジケータが消灯します。

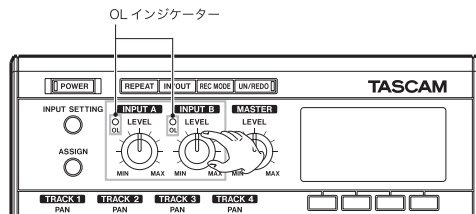
例えばトラック1、トラック2、トラック3の順にRECキーを押した場合、最初に押したトラック1の録音待機状態が解除されて、後から押したトラック2、トラック3が録音待機状態になります。

2. 録音のレベルを設定します。

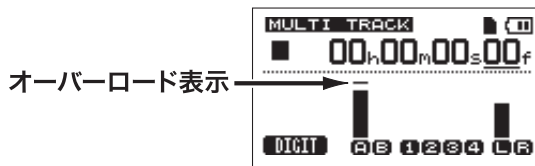
入力チャンネル（INPUT A、INPUT B）のLEVELつまみを使って入力レベルを調節します。このとき、ディスプレイのメーターとLEVELつまみ左上のOLインジケータを監視しながら、適正にレベルを設定します。同時に、ヘッドホンから聞こえてくる音が歪んでいないことを確認します。

メモ

入力信号がアサインされているトラックのメーターも、入力メーター（A、B）と同じように振れます。



入力が大きすぎると、OLインジケータが点灯します。LEVELつまみを下げてもOLインジケータが点灯する場合は、入力ソース信号のレベルを下げます。



3. 録音 (●) キーを押しながら再生 (▶) キーを押します。

録音が始まり録音 (●) キーのインジケータが赤く点灯します。トラックのRECインジケータが点滅から点灯に変わります。

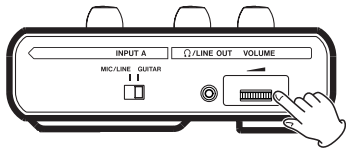
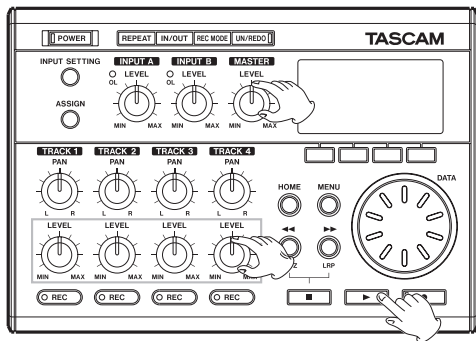
4. 録音が終わったら停止 (■) キーを押します。

5. 録音を開始した位置に戻すには、停止 (■) キーを押しながら▶▶キーを押します。（LRP = Last Recording Point 機能）

ソングの頭 (00:00:00:00) に戻すには、停止 (■) キーを押しながら◀◀キーを押します。（RTZ = Return To Zero 機能）

第6章 基本レコーディング

6. 再生 (▶) キーを押して、録音したトラックを再生します。
トラックの **LEVEL** つまみと **MASTER LEVEL** つまみを使って、再生レベルを調節します。最終的なモニター音量は **VOLUME** ダイアル、またはモニターシステムのボリュームを使って調節します。



メモ

トラックの **PAN** つまみや **LEVEL** つまみは、録音済みトラックの再生出力信号をコントロールします。入力信号はコントロールしません。

PAN つまみを使って、左右スピーカー間における各トラック信号の定位を設定します。**PAN** つまみを回していくとセンター位置でクリア感があります。

- 録音したサウンドに満足できなかったら、上記の手順を初めからやり直します。
- ◀ / ▶ キーを押すと、早戻し / 早送りを行います (テープレコーダーのように)。これらのキーを押したままにすると、早戻し / 早送りのスピードが速くなります。停止 (■) キーを押すと停止します (テープレコーダーと同様)。

オーバーダビング

すでに録音されているトラックの再生信号に合わせて別のトラックに新しい音を録音することをオーバーダビングと言います。すなわち、最初の録音以降の録音はオーバーダビングであり、オーバーダビングはマルチトラックレコーディングの基本機能です。

設定

オーバーダビングを行うには、以下の要領で設定します。

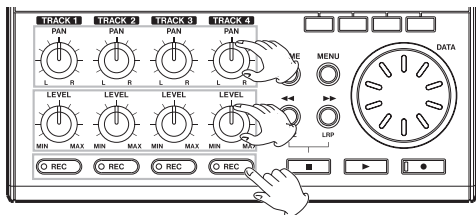
REC インジケーターの設定

- 録音済みトラックの **REC** インジケーターを消灯します。
- オーバーダビング録音するトラックの **REC** キーを押して、録音待機状態にします (**REC** インジケーター点滅)。

この状態で本機を録音モードにすると、録音済みトラックは再生、オーバーダビングするトラックは録音を始めます。

トラックのパン／レベルの設定

録音済みトラックのPANつまみとLEVELつまみを使って、オーバーダビング時の再生信号モニターのレベルと定位を調節します。



入力の設定

本章ですでに述べた方法で、入力ソースを入力チャンネル経由で録音トラックにアサインします。

リハーサル

設定を終えたら、再生 (▶) キーを押して再生を行います。本番の録音と同じように、録音済みトラックの再生音と録音トラックの入力ソースをモニターすることができますので、モニターのバランスや音量をチェックします。

本番

録音 (●) キーを押しながら再生 (▶) キーを押します。録音トラックが録音を開始しますので、再生音を聞きながらオーバーダビングを行います。

ミックスダウン

録音した個々のトラックの音量、定位などを調整し、それらをステレオミックスしてバランス良く仕上げるのがミックスダウンです。

レベルとバランス

トラック1～4のLEVELつまみを使ってトラックの相対バランスを調節します。そしてMASTER LEVELつまみを使って全体のレベルを調節します。ディスプレイの右にあるL/Rメーターを見ながらレベルが適正になるように調節します。大きすぎると音が歪みます。

メモ

ホーム画面のトラックメーターには、トラックに録音された信号のレベルが表示されます。したがって、LEVELつまみを動かしてもメーターの振れは変わりません。

ヒント

曲全体を通して同じ音量にする必要はありません。たとえば、ギターソノクの間徐々に音量を上げる、といったことも可能です。

第6章 基本レコーディング

定位 (パン)

各トラックのPANつまみを使って、ステレオミックスにおける各トラック信号の左右の定位を設定します。

マスタリング

納得のいくミックスができれば、実際のステレオレコーディングを行い、本機内部にステレオマスターを作成します。この工程がマスタリングです。本機でレコーディングしたステレオマスターは、ソングの一部として保存されます。

本機では作成したステレオマスターを外部のステレオレコーダーに録音できるほか、本機の内部でWAVファイル形式に変換してパソコンにエクスポートし、パソコン上でさらにサウンド処理やレコーディングを行うこともできます。(→ 94ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)

メモ

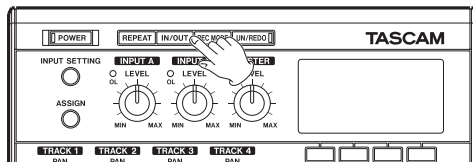
ソング内に作成できるステレオマスターはひとつだけです。

終了点を設定する

マスタリングを実行する前に、マスタリングの終了点を設定します。ソングの00:00:00:00 (ゼロポイント) からOUTポイントまでの範囲が、ステレオマスターとしてレコーディングされます。通常は曲の終わりのポイントをOUTポイントに設定します。したがってOUTポイントの時間がその曲の長さになります。

以下の手順でOUTポイント (= 終了点) を設定します。

1. IN/OUTキーを押してI/O SETTING画面を表示します。



2. ソングを再生し、ステレオマスターの終了点にしたい位置でF4 (OUT) キーを押します。

"SET OUT !" が表示されます。この位置がOUT点として設定されます。



ヒント

停止中も、F4 (OUT) キーを押してOUT点を設定することができます。

3. HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

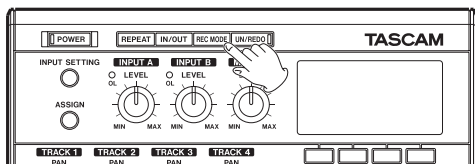
メモ

OUTポイントを修正する方法など、詳しい情報は「IN/OUTポイントを設定する」(69ページ)をご覧ください。

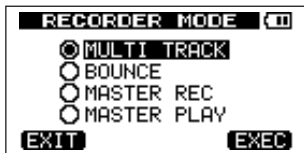
マスタリングを実行する

OUTポイントを設定後、マスタリングを行います。

1. REC MODEキーを押します。



RECORDER MODE画面が表示されます。



2. DATAホイールを使ってMASTER RECを反転表示します。

3. F4 (EXEC) キーを押します。

本機がマスターレコーディングモードになり、ホーム画面に戻ります。この状態で再生や録音を行うと、ヘッドホンやモニターシステムからはトラックのミックス信号(=録音される信号)が聞こえます。

メモ

本機がマスターレコーディングモードのとき、再生機能などで機能しないものがあります。こうした機能を実行しようとすると、ポップアップメッセージ("In Master Mode")が表示されます。

4. 録音(●)キーを押しながら再生(▶)キーを押します。

マスターレコーディングが始まり、録音(●)キーのインジケーターが点灯します。

レコーダー位置がどこであっても、"00:00:00:00"ポイント(ソングの先頭)からレコーディングが始まります。

必要に応じてLEVELつまみ、PANつまみを使ってミックスをコントロールします。ここでの操作はステレオマスターのサウンドに反映されます。

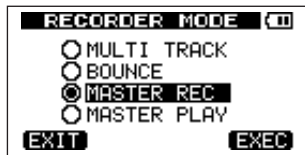
レコーダー位置がOUTポイントに到達すると、レコーディングが自動的に終了します。

終了後、作成されたマスタートラックを聞いてみるには、以下の操作を行います。

第6章 基本レコーディング

5. REC MODEキーを押します。

RECORDER MODE画面が表示されます。



6. DATAホイールを使ってMASTER PLAYを反転表示します。

7. F4 (EXEC) キーを押します。

本機がマスター再生モードになり、ホーム画面に戻ります。

8. この状態で再生 (▶) キーを押すと、いま作成したステレオマスターが再生されます。

ステレオマスターの信号は Ω /LINE OUT 端子から出力されますので、外部のステレオレコーダーにダビングすることができます。

9. 納得のいくステレオマスターが作成できたら、REC MODEキーを押してRECORDER MODE画面を表示し、DATAホイールを使ってMULTI TRACKを反転表示し、F4 (EXEC) キーを押します。本機がマルチトラックモード（通常モード）に戻り、ディスプレイがホーム画面に戻ります。

でき上がったステレオマスターが気に入らない場合、上記の手順で再度マスターレコーディングをやり直します。新しいステレオマスターが以前のステレオマスターを上書きします。

メモ

保存されているソングに録音されているステレオマスターを聞くには、そのソングをロードしてから、レコーダーモードをMASTER PLAYに設定し、再生 (▶) キーを押して再生します。

ヒント

- マスターレコーディング時に、ミックスダウン信号に合わせて演奏を行い、その音をINPUT A/Bに入力することにより、演奏の音とトラック信号をミックスしてステレオマスターを作成することができます。
- マスタリング作業の後、本機の電源をオフにする場合は、上記の手順9.でMULTI TRACKモードに戻す必要はありません。どのレコーダーモードで終了しても、次回電源を入れたときはMULTI TRACKモードで起動します。
- 本機で作成したマスターミックスのファイルを、パソコンで再生可能なファイルとして、パソコンに転送することができます。(→ 94ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)
- ステレオマスターをトラック1～4のうちのいずれかのペアトラックにコピーして「クローン」トラックを作ることができます。(→ 83ページ「クローントラック (トラック複製)」)

実行した操作を取り消す（アンドゥ）

本機の操作を失敗したときや、レコーディングがうまくいかなかったときなど、操作を取り消すことができます。編集操作、録音操作など、多くの通常の操作は取り消し（アンドゥ）が可能です。

本機のアンドゥには、シンプルなキー操作で行うことができるシングルアンドゥと、操作履歴上の任意の位置に戻ることができるマルチアンドゥの2種類があります。

最後に行った操作を取り消す（シングルアンドゥ）

UN/REDOキーを押します。

最後の操作を行う前の状態に戻ります。

この状態でUN/REDOインジケータが点灯し、リドゥ（以下参照）が可能です。

メモ

本機が最後に行った編集／録音操作後の状態でないとき、UN/REDOインジケータが点灯します。

アンドゥ操作を取り消すには（リドゥ）：

UN/REDOインジケータが点灯中に、このキーを押します。

最後の操作が再び有効になって本機が最新の状態に戻り、UN/REDOインジケータが消灯します。

メモ

以下に述べるマルチアンドゥを実行して本機が以前の状態に戻っているときにシングルアンドゥを実行すると、さらに一つ前の状態に戻ります。再度UN/REDOキーを押してリドゥを実行すると、シングルアンドゥ操作が取り消され、再びマルチアンドゥ後の状態に戻ります。この場合は本機が最新の状態に戻らないため、UN/REDOインジケータは点灯したままです。

ある操作以降の操作を取り消す（マルチアンドゥ）

1. 停止 (■) キーを押しながらUN/REDOキーを押します。
HISTORY画面が表示されます。



この画面には操作の履歴がリスト表示されています。リスト上の各操作項目を「イベント」と呼びます。

イベント番号 "0" (START UP) から操作順にイベントがリスト表示され、いちばん上の行が最新のイベントです。最新のイベントの脇には "*" が付いています。

このリスト内で指定するイベント以降のイベントを取り消すことができます。このように複数のイベントを取り消してそれ以前の状態に戻す操作を「マルチアンドゥ」と呼びます。

第6章 基本レコーディング

2. **DATA** ホイールを使って、操作をさかのぼりたいイベントを選択します（選択したイベント以降のイベントが取り消されることとなります）。
3. **F2 (EXEC)** キーを押します。
マルチアンドゥが実行され、本機は選択したイベント直後の状態に戻ります。この状態で **UN/REDO** インジケータが点灯します。

上記によって取り消されたイベント情報が消えるわけではありません。本機の状態がさかのぼっているだけです。**HISTORY** 画面上では、アンドゥによってさかのぼったイベントの脇に "*" が表示されます。マルチアンドゥした状態（**UN/REDO** インジケータ点灯）で新たに録音や編集作業を行うと、現在のイベントより新しいイベント履歴がクリアされ、新たに行った作業が最新イベントとして登録されます。

メモ

HISTORY 画面表示中は **UN/REDO** キーが無効になり、シングルアンドゥとリドゥを実行できません。

注意

- アンドゥが実行されて取り消された操作があるとき、**UN/REDO** インジケータが点灯します。
取り消された操作がないとき（＝最新の操作を行った後の状態のとき）、**UN/REDO** インジケータが消灯します。
UN/REDO インジケータが点灯しているとき（＝取り消された操作があるとき）に新たに録音や編集作業を行うと、新たに行った作業が最新イベントとなり、取り消された操作には戻れなくなります。

- ソングセーブ時にソングデータとして記録される操作履歴は最大500項目です。
操作履歴が500項目を超えている場合、ソングセーブ時に古い操作履歴が削除されます。このときに削除された操作履歴は復活することはできません。
- 電源オフすると操作履歴はすべて消去されます。再度電源オンしたときには電源オフした時の状態となり、それ以前の操作履歴に戻ることはできません。

操作履歴の消去について

電源をオフにすると、現在ロードされているソングの操作履歴がすべて消去（クリア）されます。再度電源をオンにしたときは前回の電源オフ時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

メモ

電源オフ時にロードされていないソングの操作履歴は消去されません。

また、電源オンのままで現在ロード中のソングの操作履歴を消去（クリア）するには、以下の手順を行います。

1. **停止 (■)** キーを押しながら **UN/REDO** キーを押します。
HISTORY 画面が表示されます。
2. **F4 (CLEAR)** キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3. **F3 (YES)** キーを押します。
再度、確認メッセージが表示されます。
 4. **F3 (YES)** キーを押します。
操作履歴がクリアされ、使用していないデータが消去されます。
操作が完了するとホーム画面に戻ります。
- 操作履歴の削除を中止したいときは、**F3 (YES)** キーを押す代わりに**F4 (NO)** キーを押します。

ヒント

- 操作履歴の消去を行った直後に**HISTORY**画面を見ると、イベント(操作)番号**"0" (START UP)**のみが表示され、すべての操作履歴がクリアされたことを確認できます。
- 電源オフしても操作履歴を残しておきたいときは、電源オフする前にソングプロテクトをオンにしておいてください。(→ 52ページ「ソングをプロテクトする」)

注意

操作履歴の消去は取り消し(アンドゥ)できません。よく確認してから実行してください。

第7章 レコーダー機能

パンチイン／アウト

パンチイン／アウトは、録音済みのトラックの一部を差し替えるときに使うテクニックです。

レコーダーを再生して、差し替え部分に来たら録音に切り換え（パンチイン）、差し替え部分を終了したら再生（または停止）に切り換えます（パンチアウト）。

1. あらかじめ差し替える部分を決めておきます。
差し替えた音声が入る元のトラック音声とうまくつながるようなポイントを選びます。
2. 差し替えるトラックの**REC**キーを押して録音待機状態にします（**REC**インジケーター点滅）。
3. 差し替え部分の手前から再生を始めます。
4. 差し替え部分に来たら**録音**（●）キーを押して、演奏を行います。
録音に切り換わります（パンチイン）。
5. 差し替え部分の終わりに来たら**再生**（▶）キーを押します。
再生に切り換わります（パンチアウト）。

ヒント

差し替え部分の終わりに来たとき、**停止**（■）キーを押して停止してパンチアウトすることもできます。

トラックバウンス

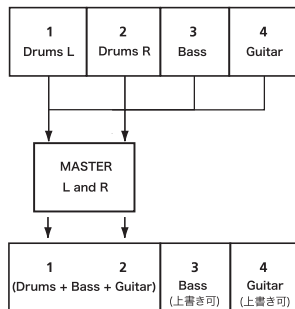
本機のトラックバウンス（ピンポン）機能を使って、録音済みのトラック1～4をミックスしてトラックに戻すことができます。

テープを使ったマルチトラックレコーダーでは、空きトラックにバウンスすることしかできません（つまり再生トラックには録音することができません）。例えばトラック1～3をトラック4にバウンスできますが、トラック1～4をトラック1にバウンスすることはできません。

本機ではこうした制約がなく、トラック1～4をステレオミックスしてトラック1／2に録音（ステレオバウンス）、あるいはトラック1～4をモノラルミックスしてトラック1に録音（モノラルバウンス）といったことが可能です。

メモ

本機の内部では、いったんミックスダウンを行ってミックスマスターを作成し、これを指定のトラックに録音しています。



再生トラック自身に録音した場合、当然、元の再生トラックは消去されます（上図ではトラック1と2のドラムパートがミックス信号で上書きされます）。ただし、本機には取り消し（アンドゥ）機能がありますので、誤った操作を行った場合でも操作を取り消すことができます（→63ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）。

トラックバウンスを行う

- REC MODEキーを押します。

RECORDER MODE画面が表示されます。



- DATAホイールを使ってBOUNCEを反転表示します。

- F4 (EXEC) キーを押します。

本機がバウンスモードになり、ホーム画面に戻ります。



- バウンス先のトラックのRECインジケータを点灯させます。

ステレオバウンスする場合はトラック1/2、または3/4のRECインジケータを点灯させます。モノラルバウンス（単一トラックにバウンス）の場合はいずれか1つのトラックのRECインジケータを点灯させます。

- バウンス元になるトラックのLEVELつまみとPANつまみを調整します。

モノラルバウンスの場合はそれぞれのパンをL（トラック1、3の場合）またはR（トラック2、4の場合）いっぱい設定します。

MASTER LEVELつまみで全体のレベルを調節します。

- ソングの冒頭にロケートしてから、録音（●）キーを押しながら再生（▶）キーを押します。

トラックバウンスが実行されます。

結果を確認する

バウンス先のトラックのLEVELつまみとMASTER LEVELつまみを上げて（他のトラックのLEVELつまみは最小にします）、ソングの冒頭から再生します。

楽器のバランスが良くない、あるいはパン設定が良くないなど、結果に満足できない場合は、アンドゥを実行します。（→63ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）

結果に満足したら、REC MODEキーを押してRECORDER MODE画面を表示し、MULTI TRACKを選択し、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

トラックバウンス後、トラック3と4には新たな音を録音（上書き）することができます。

ヒント

後からオリジナルトラックが必要になる可能性がある場合は、バウンス（ピンポン録音）の前にトラックデータをパソコンにバックアップしたり、ソングのコピーを作成しておいてください。（→ 49ページ「ソングをコピーする」）（→ 87ページ「パソコンと接続する」）

ロケート／サーチ機能

ダイレクトロケート機能

ソング内の指定した位置にロケートする方法を説明します。

本機のディスプレイ上部には、現在のレコーダー位置が「時：分：秒：フレーム」として時間表示されています（30フレームで1秒）。

この時間表示部に指定の時間を入力することによって、レコーダーを移動することができます。

1. F1 (DIGIT) キーを使って、時間桁間でカーソル（下線）を移動します。

カーソル位置の桁の値を編集することができます。

下図の例では「秒」桁が選択されています。



2. DATA ホイールを使ってカーソル桁の値を変えます。

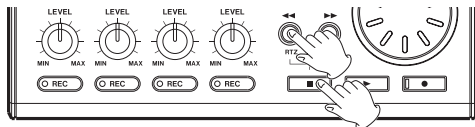
それぞれの桁は自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえばプラス方向にDATAホイールを回転して59秒から0秒になったとき、分桁の値が1つ大きくなります。DATAホイールを使うと時間表示が点滅します。約2秒後にレコーダーが表示の位置に移動すると点滅が止まります。

3. 別の桁を編集するには、F1 (DIGIT) キーを使って桁を移動し、DATAホイールを使って値を変更します。

4. 希望の時間値を設定後、再生 (▶) キーを押すと、その位置から再生が始まります。

RTZとLRP

シンプルなキー操作でソングの先頭、あるいは最後に録音を始めた位置にロケートすることができます。



ソングの先頭 (00:00:00:00) に戻るには：

停止 (■) キーを押しながら ◀◀ キーを押します。

最後に録音を始めた位置に戻るには：

停止 (■) キーを押しながら ▶▶ キーを押します。

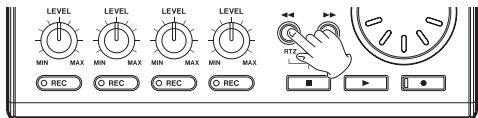
録音を行った後、録音をやり直したいときなどに便利な機能です。

ヒント

◀◀ キー、▶▶ キーの下部に表記されている **RTZ**、**LRP** はそれぞれ、Return To Zero、Last Recording Position の意味です。

早送り／早戻しサーチ

停止中や再生中、◀◀ キー、▶▶ キーを押すと、早戻し、早送りをを行います。



押すたびにスピードが 10 倍→50 倍→100 倍→1000 倍と変化します。

リピート再生

リピート再生機能を使って、繰り返し再生を行うことができます。リピート範囲は **IN** ポイントと **OUT** ポイントの間です。

IN／OUT ポイントを設定する

IN ポイントと **OUT** ポイントは、リピート再生の範囲設定に使われるほかに、トラック編集の範囲設定にも使われます。また、**OUT** ポイントはマスタリング時のマスタートラックの終点として使われます。

IN／OUT ポイントを取り込む

停止中、再生中、録音中のいずれでも、**IN**／**OUT** ポイントを取り込む（キャプチャーする）ことができます。

1. **IN/OUT** キーを押します。
I/O SETTING 画面が表示されます。



2. (停止中、再生中、録音中にかかわらず) レコーダーが希望の位置にあるときに、**F3 (IN)** キーまたは **F4 (OUT)** キーを押します。
"SET IN !" または "SET OUT !" および取り込んだ時間が表示されます。

ヒント

ホーム画面表示中も、**F3**、**F4** キーを使って **IN**、**OUT** ポイントを取り込む（キャプチャーする）ことができます。



[SET IN の場合]



[SET OUT の場合]

IN / OUT ポイントを編集する

1. I/O SETTING 画面表示中（前ページの画面図を参照）、F2 (EDIT) キーを押します。
編集画面に進みます。



2. 以下の要領で、IN / OUT ポイントの値を編集します。
 - F3 (▲)、F4 (▼) キーを使って、IN ポイントと OUT ポイント間のカーソル（下線）移動を行います。
 - ◀▶ キーを使って時間桁間のカーソル（下線）移動を行います。
 - DATA ホイールを使ってカーソル（下線）位置の値を変更します。
3. 編集を終えたら HOME キーを押してホーム画面に戻します。

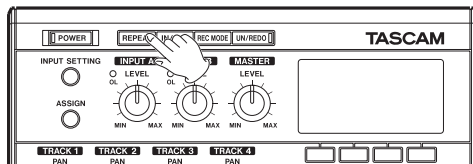
メモ

以下の場合、IN / OUT ポイントの取り込みや編集ができません。

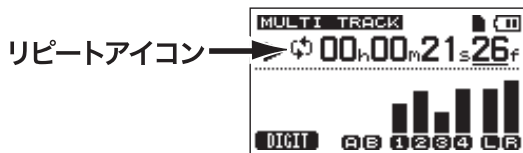
- リピート再生中
- レコーダーモードが MASTER REC モードあるいは MASTER PLAY モード中

リピート再生を実行する

1. リピートしたい区間の始点と終点を、それぞれ IN ポイントと OUT ポイントとして設定し、設定後、ホーム画面に戻します。
2. REPEAT キーを押します。



ホーム画面上にリピートアイコンが点灯し、リピート再生が始まります。



INポイントから再生が始まり、OUTポイントまで来ると、あらかじめ設定した間隔（リピートインターバル）を置いてから、再びINポイントからの再生が始まります。

以後、INポイントとOUTポイント間を繰り返し再生します。

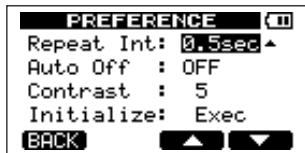
3. リピート再生を解除するにはREPEATキーを押して、ホーム画面上のリピートアイコンを消灯します。

なお、以下に述べる方法で、OUTポイントまで再生してから再び再生を始めるまでのリピートインターバルを設定します。

リピート再生の間隔を設定する

リピートの間隔（リピートインターバル）を0.5秒～9.9秒の範囲で設定することができます。

1. MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってPREFERENCEを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
PREFERENCE画面が表示されます。



3. F3 (▲)、F4 (▼) キーを使ってRepeat Int項目の設定値を反転表示し、DATAホイールを使って値を設定します。

0.5秒～9.9秒の範囲（0.1秒単位）で設定できます。

4. 設定を終えたらHOMEキーを押してホーム画面に戻します。

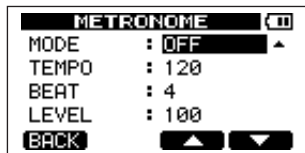
第8章 さまざまな機能

メトロノーム機能

本機はメトロノーム機能を内蔵しています。メトロノームはレコーダー走行中に動作します。再生時と録音時の両方、または録音時のみ動作するように設定することができます。

1. ホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってMETRONOMEを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。

METRONOME画面が表示されます。



3. 以下の項目を設定します。
F3 (▲)、F4 (▼) キーを使って項目を選択し、DATAホイールを使って値を選択します。

MODE

OFF (メトロノーム機能オフ)、REC&PLAY (録音/再生時にメトロノームが動作)、REC ONLY (録音時のみ、メトロノームが動作)の中から選択します。

TEMPO

スピードを設定します。20～250 (BPM) の範囲で設定できます。

BEAT

拍子を設定します。拍子の1拍目にアクセントが付きます。拍子は1～12の範囲で設定できます。

LEVEL

メトロノームの音量を設定します。0～127の範囲で設定できます。

4. 設定を終えたら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。
手順3で行ったMODE設定に従って、メトロノームが動作します。
REC&PLAYでは、再生時または録音時に動作します。
REC ONLYでは、録音時に動作します。
OFFでは、メトロノーム機能が無効です。
なお、録音時にメトロノームが動作しても、メトロノーム信号は録音されません (モニターのみです)。

メモ

- メトロノームの音量はMASTER LEVELつまみでは調節できません。METRONOME画面のLEVEL項目を使って調節します。
- メトロノーム動作中、METRONOME画面でLEVELの調節を行うことができますが、他の項目は変更できません。

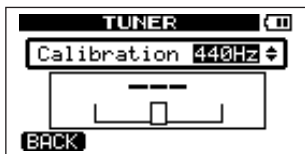
ヒント

- レコーディングの最初にベーシクトラック (リズムギター、ベースなど) を録音するとき、メトロノームをガイドクリックとして使うことができます。
- メトロノームを使って練習をするときは、何も録音されていないソングを再生するか、またはMASTER LEVELつまみを下げた状態でソングを再生します。

チューナー

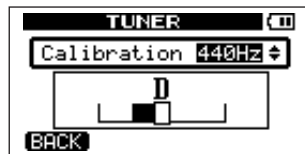
内蔵のギター／ベース用チューナーを使ってギターやベースをチューニングすることができます。

1. ギターまたはベースを **INPUT A** に接続します。
INPUT B に接続してもチューニングできません。
2. **INPUT SETTING** 画面で、**INPUT A** の入力ソースを **GUITAR/LINE** に設定します。(→ 53 ページ「入力ソースを選択する」)
3. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU** キーを押して **MENU** 画面を表示します。
4. **DATA** ホイールを使って **TUNER** を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
TUNER 画面が表示されます。
Calibration 項目 (基準周波数) の値が反転表示されています。

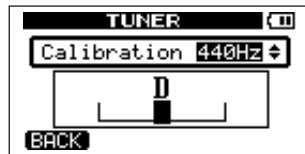


5. **DATA** ホイールを使って、A音の基準周波数を設定します。
435Hz～445Hzの範囲で設定できます。初期設定は440Hzです。

6. ギターまたはベースの弦を弾いてチューニングを行います。
弾いた音に最も近い音名がメーター上部に表示されます。
合わせたい音名が表示されて、メーター中央部が点灯するように楽器をチューニングします。
チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。
以下の画面例はDより低い場合です。



ぴったり合うと中央の四角が反転表示になります。

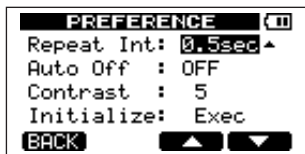


7. チューニングを終えたら、**HOME** キーを押してホーム画面に戻します。

電源のオートオフ

バッテリー駆動時、最後に動作あるいは操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定することができます。

1. ホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. PREFERENCEを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
PREFERENCE画面が表示されます。

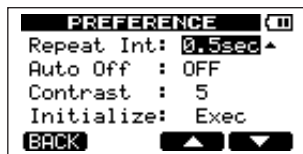


3. F3 (▲)、F4 (▼) キーを使って Auto Off の設定値を反転表示し、DATAホイールを使って以下の中から値を選択します。
OFF (初期設定、自動オフしない)、3min、5min、10min、30min
4. 設定を終えたら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

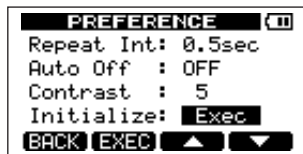
プリファレンス設定を初期設定に戻す

PREFERENCE画面の設定を初期状態 (工場出荷時の状態) に戻すことができます。この操作をインイチャライズと呼びます。

1. ホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってPREFERENCEを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
PREFERENCE画面が表示されます。



3. F3 (▲)、F4 (▼) キーを使って Initialize 項目の Exec を反転表示し、F2 (EXEC) キーを押します。



4. 確認画面が表示されますので、F3 (YES) キーを押します。



イニシャライズが実行され、完了後、PREFERENCE画面に戻ります。

メモ

イニシャライズを実行しない場合はF4 (NO) キーを押します。

5. 設定を終えたら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

情報を見る

カレントソング、SDカード、システム、ファームウェアの情報を見ることができます。

1. ホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってINFORMATIONを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。



INFORMATION画面のSONGページが表示されます。



INFORMATION画面には、このページを含めて4ページあります。

3. F3 (PREV)、F4 (NEXT) キーを使って、ページを切り換えます。各ページには以下の情報が表示されます。

SONGページ：現在ロード中のソング名、所属のパーティション、録音時間



[SONGページ画面]

第8章 さまざまな機能

CARDページ：MTRパーティション構成と各容量、FATパーティションの容量



[CARDページ画面]

SYSTEMページ：リピートインターバル、オートオフ設定時間、コントラスト設定値



[SYSTEMページ画面]

F/Wページ：システムのファームウェアバージョン



[F/Wページ画面]

パーティションの概要

「パーティションとソング」(46ページ)でも述べたように、本機でフォーマットしたSDカードはパーティションに仕切られています。パーティションには録音データ(ソング情報)を記録するためのMTRパーティションと、パソコンからの読み込みが可能なFATパーティションがあります。MTRパーティションは複数存在する場合があります。この場合、ソングのタイプごとにMTRパーティションを分けて使ったり、ソング情報を、保管などの目的のために別のMTRパーティションにコピーすることができます。FATパーティションはFAT32形式によるフォーマットで、本機とUSB接続したパソコンから読み込むことができます。パソコン上にソングを保存する場合やステレオマスターをパソコンにエクスポートする場合、あるいは本機のソングにオーディオファイルをインポートする場合など、このFATパーティションを介して行われます。そのため、パソコンとMTRパーティション間でソング情報をコピーするためには2段階の操作が必要です。

なお、必要に応じてカード全体のフォーマットやパーティション毎のフォーマット、あるいはパーティションの仕切り直し(リパーティション)を行うことができます。

注意

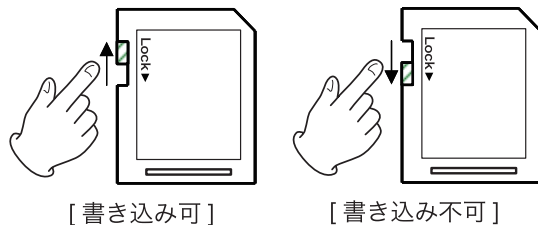
フォーマットとリパーティションは操作の取り消し(アンドゥ)ができません。

メモ

- FATフォーマット(File Allocation Table)はパソコンで読むことができるディスクフォーマットです。
- 本機ではSDカード(512Mバイト~2Gバイト)およびSDHCカード(4Gバイト~32Gバイト)を使うことができます。
- アクティブパーティションを選択する方法については「アクティブパーティションを変更する」(46ページ)をご覧ください。

カードのライトプロテクトについて

SDカードにはライトプロテクト(書き込み防止)スイッチが付いています。



スイッチを下にスライドするとファイルの記録や編集ができません。カードの内容を消去しないように保護したいときは、スイッチを下にスライドしてください。

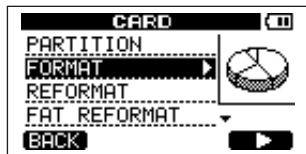
カードをフォーマットする

この操作では、カード全体をフォーマットします。その際、容量の大きいカードでは本機のMTRパーティションのサイズを設定することができます。

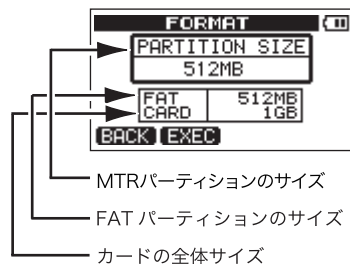
注意

この操作によってカード全体のデータが消去されます。取り消し（アンドゥ）はできません。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU**キーを押して**MENU**画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って**CARD**を反転表示し、**F4 (▶)**キーを押します。
CARDメニュー画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って**FORMAT**項目を選択し、**F4 (▶)**キーを押します。



FORMAT画面が表示されます。



次の表は、SDカードの容量別に、FATパーティションサイズとMTRパーティションサイズを示しています。カード容量によってFATパーティションのサイズは決まります。MTRパーティションサイズは、4GB以下のカードでは固定ですが、8GB以上のカードでは選択可能です。ただし、最後の1つは残ったスペースで作られますので、サイズが異なります。

カード容量とパーティションサイズ

カード容量	FATパーティションサイズ	MTRパーティションサイズ
32GB	4GB	2GB, 4GB, 8GB, 16GBから選択
16GB	4GB	2GB, 4GB, 8GBから選択
8GB	2GB	2GB, 4GBから選択
4GB	2GB	2GB固定
2GB	1GB	1GB固定
1GB	512MB	512MB固定
512MB	256MB	256MB固定

4. (カード容量が8GB以上の場合) **DATA** ホイールを使ってMTRパーティションサイズを選択し、**F2 (EXEC)** キーを押します。
すべてのソングが消去されることを警告するメッセージが表示されます。

5. **F3 (YES)** キーを押します。

カードがフォーマットされます。

たとえば16GBのカードをMTRパーティションサイズ4GBでフォーマットを行った場合、4GBのFATパーティションを除いた12GBがMTRパーティション用に使われ、4GBのパーティションが2つと、残りの3GBのパーティションが1つ作成されます。(本機における1GBは1024MBです。したがって、本機のパーティションの表示サイズの合計がカードの表示サイズと一致しない場合があります。)

- フォーマットが終わると、**CARD**メニュー画面に戻ります。
- フォーマット後の各MTRパーティションには、ソングが1つずつ自動作成されます。
- フォーマットを取りやめる場合は、**F3 (YES)** キーの代わりに**F4 (NO)** キーを押します。

MTRパーティションを再フォーマットする (リフォーマット)

希望のMTRパーティションを再フォーマットすることができます。パーティションサイズを変更する必要がなく、特定のパーティションのみをフォーマットしたい場合にこの機能を使います。

注意

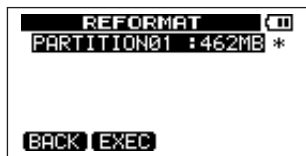
この操作は取り消し(アンドゥ)ができません。選択したパーティション内のすべてのデータが消えます。再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU** キーを押して**MENU**画面を表示します。
2. **DATA** ホイールを使って**CARD**を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
CARDメニュー画面が表示されます。
3. **DATA** ホイールを使って**REFORMAT**項目を選択し、**F4 (▶)** キーを押します。



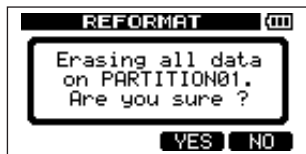
第9章 SDカードの管理

REFORMAT画面が表示されます。



MTRパーティションのリストがパーティションのサイズ（空き容量ではありません）とともに表示されます。アクティブパーティションには "*" が付いています。

4. DATAホイールを使って、再フォーマットしたいパーティションを反転表示しF2 (EXEC) キーを押します。
パーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。



5. F3 (YES) キーを押します。
パーティションが再フォーマットされます。

- 再フォーマットが終わると、CARDメニュー画面に戻ります。
- 再フォーマット後のMTRパーティションには、ソングが1つ自動作成されます。
- 再フォーマットを取りやめる場合は、F3 (YES) キーの代わりにF4 (NO) キーを押します。

FATパーティションを再フォーマットする

FATパーティションのみを再フォーマットすることができます。FATパーティションのサイズは変更できません。

注意

この操作は取り消し（アンドゥ）ができません。FATパーティションのすべてのデータが消えます。再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってCARDを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
CARDメニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使ってFAT REFORMAT項目を選択し、F4 (▶) キーを押します。
FATパーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。



4. F3 (YES) キーを押します。

FATパーティションが再フォーマットされます。

- 再フォーマットが終わると、CARDメニュー画面に戻ります。
- 再フォーマットを取りやめる場合は、F3 (YES) キーの代わりにF4 (NO) キーを押します。

カードをイニシャライズする

本機で使用したSDカードを他の機器で使用する場合、イニシャライズを行うことをお勧めします。

SDカードのイニシャライズを行うと、カード全体がFAT32形式でフォーマットされます。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってCARDを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
CARDメニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使ってSD INITIALIZE項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。

カード上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。



4. F3 (YES) キーを押します。

カード全体がイニシャライズされ、FAT32形式でフォーマットされます。

- イニシャライズを取りやめる場合は、F3 (YES) キーの代わりにF4 (NO) キーを押します。

注意

DP-004で再び使用する場合はカードのフォーマットが必要です (→ 78ページ「カードをフォーマットする」)

第10章 トラックの編集

従来のテープレコーダーでは高度のテクニックを必要としたようなトラック編集を、本機では簡単に、しかも正確に行うことができます。さらにテープレコーダーでは、編集に失敗した場合にやり直しできませんでしたが、本機は「ノンデストラクティブ・エディティング（非破壊編集）」という手法を採用し、元のデータを残したまま編集を行っているため、取り消し（アンドゥ）機能によって、簡単に編集をやり直すことができます（→ 63 ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）。

トラック編集の概要

本機には以下のトラック編集機能があります。

- クローントラック（トラック複製）
- クリーンアウト（トラック削除）
- サイレンス（部分消去）
- カット（部分削除）
- オープン（無音挿入）

編集ポイント

トラック編集のうち、サイレント、カット、オープンでは、INおよびOUTポイントを編集ポイントとして使います。これらのポイントは、リピート再生で使うINおよびOUTポイントと共通です。

IN、OUTポイントの設定方法については「IN／OUTポイントを設定する」（69ページ）をご覧ください。

- INポイントはトラック編集対象セクションの始点になります。

- OUTポイントはトラック編集対象セクションの終点になります。

編集の基本操作

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示します。
2. DATAホイールを使ってTRACK EDITを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
トラック編集メニューが表示されます。



3. DATAホイールを使って希望のトラック編集機能を選択し、F4 (▶) キーを押します。
各編集機能の画面が表示されます。
 4. 設定項目の値を選択します。
複数の設定項目がある場合はF3 (▲)、F4 (▼) キーを使って項目を選択し、DATAホイールを使って値を選択します。
設定項目の詳細は、以下の各機能説明をお読みください。
 5. F2 (EXEC) キーを押して、機能を実行します。
- F1 (BACK) キーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

クローントラック (トラック複製)



単一トラック、ペアトラックまたはマスタートラックを、別のトラックにコピーして、クローントラックを作成します。トラック全体のコピーですので、IN/OUTポイントは関係ありません。



設定パラメータは以下の2つです。

SOURCE TRK

コピー元トラックを選択します。選択肢は1~4 (単一トラック)、1/2、3/4 (ペアトラック) およびMST (マスタートレオトラック) です。

DESTINATION TRK

コピー先トラック (クローントラック) を選択します。SOURCE TRK 項目で何を選択したかによって選択肢が変わります。

SOURCE TRKとして単一トラックを選択した場合は、DESTINATION TRKの選択肢は1~4 (単一トラック)、SOURCE TRKとしてペアトラック (たとえば1/2) またはMASTERを選択した場合はDESTINATION TRKの選択肢は1/2、3/4 (ペアトラック) になります。

パラメータを設定後、F2 (EXEC) キーを押すと、編集が実行されます。F1 (BACK) キーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

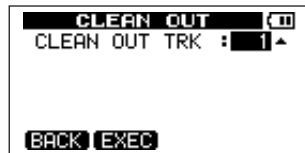
メモ

SOURCE TRKと同じトラックをDESTINATION TRKに設定すると、F2 (EXEC) キーを押したときにメッセージ ("Same Track") が表示され、操作を受け付けません。

クリーンアウト (トラック削除)



指定したトラック全体を削除します。トラック全体の削除ですので、IN/OUTポイントは関係ありません。



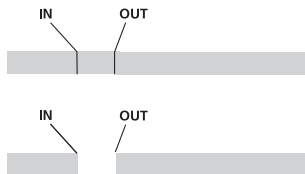
第10章 トラックの編集

設定パラメータは1つだけです。

CLEAN OUT TRK

削除するトラックを選択します。選択肢は1～4（シングルトラック）、1/2、3/4（ペアトラック）および1-4（全トラック）です。パラメータを設定後、F2 (EXEC) キーを押すと、編集が実行されます。F1 (BACK) キーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

サイレンス（部分消去）



選択したトラックのINポイントとOUTポイント間を消去します。INポイントとOUTポイント間に無信号を録音したときと同じです。この操作では、トラックの長さは変わりません。



設定パラメータは1つだけです。画面にINポイントとOUTポイントが表示されますが、これらは表示のみで、設定項目ではありません。

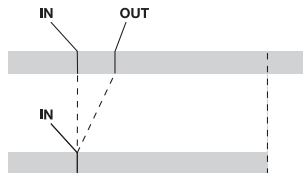
SILENCE TRK

削除するトラックを選択します。選択肢は1～4（シングルトラック）、1/2、3/4（ペアトラック）および1-4（全トラック）です。パラメータを設定後、F2 (EXEC) キーを押すと、編集が実行されます。F1 (BACK) キーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

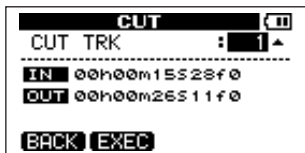
ヒント

この機能を使って、短いノイズなどを消すことができます。

カット（部分削除）



選択したトラックのINポイントとOUTポイント間をカット（削除）して、OUTポイント以降のパートを手前に詰めます。したがって、トラックの長さが短くなります。



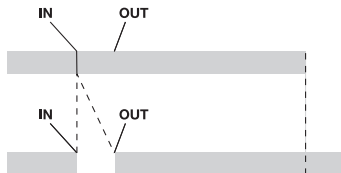
設定パラメータは1つだけです。画面にINポイントとOUTポイントが表示されますが、これらは表示のみで、設定項目ではありません。

CUT TRK

選択肢は1～4（シングルトラック）、1/2、3/4（ペアトラック）、1-4（全トラック）およびALL（1-4+マスタートラック）です。

パラメータを設定後、F2（EXEC）キーを押すと、編集が実行されます。F1（BACK）キーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

オープン（無音挿入）



選択したトラックのINポイントとOUTポイント間に無音部分を挿入します。

この操作では、INポイントの位置でトラックが前後に分割され、INポイント以降のパートがOUTポイント以降に移動します。したがってトラックの長さが長くなります。



設定パラメータは1つだけです。画面にINポイントとOUTポイントが表示されますが、これらは表示のみで、設定項目ではありません。

OPEN TRK

選択肢は1～4（シングルトラック）、1/2、3/4（ペアトラック）、1-4（全トラック）およびALL（1-4+マスタートラック）です。

パラメータを設定後、F2（EXEC）キーを押すと、編集が実行されます。F1（BACK）キーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

第11章 パソコンを使ったデータ送受信

本機のソング情報をパソコンにバックアップしたり、バックアップしたソング情報を本機に戻す（リストアする）ことができます。また、ソング内のトラックファイルやマスターファイルをパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のオーディオファイルを本機にインポートすることができます。

パソコンと本機はUSB接続され、データ転送は常に本機のFATパーティションを経由して行われますので、2段階のプロセスが必要です。

メモ

- ソングファイルが記録されているMTRパーティションにパソコンから直接アクセスすることはできません。
- 本章の説明の中で「パソコン」と表記する場合、本機が対応しているWindowsまたはMacintoshのパーソナルコンピュータを指します。（→ 87ページ「必要なパソコンシステム」）
- 本取扱説明書では「本機にセットしているSDカード」のことを「本機」と呼ぶ場合があります。（例：本機のFATパーティション）同様に、ハードディスクなど、パソコンに装備されているデバイスを「パソコン」と呼ぶ場合があります。（例：パソコンに転送）

FATパーティション内には3つのディレクトリ（フォルダ）—BACKUP、WAVE、UTILITY—があります。

メモ

- これらのディレクトリを削除したり名前を変更したりしないでください。削除や変更を行うと本章で説明する操作ができなくなります。
- UTILITYディレクトリは本機のシステムをアップデートするときな

どに使われます。アップデートの方法についてはアップデートソフトウェアに添付の説明書をご覧ください。

本機では以下のデータをパソコンに転送することができます。

● ソング全体

本機では、ソング全体のデータをFATパーティション内のBACKUPディレクトリからパソコンに転送することができます。この操作を「バックアップ」と呼びます。また、パソコンにバックアップしたデータをFATパーティション内のBACKUPディレクトリに転送し、ソングデータとして復元することができます。この操作を「リストア」と呼びます。

● WAVフォーマットのトラック

トラック（複数可）をWAVファイルに変換してパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のWAVファイル（1つずつ）を本機にインポートすることができます。WAVファイルは本機のFATパーティション上のWAVEディレクトリに格納されます。

● ステレオマスターミックス

本機のステレオマスターミックスを、ステレオWAVファイルとして（FATパーティション上のWAVEディレクトリから）パソコンに転送することができます。エクスポートのみが可能です。

必要なパソコンシステム

本機と以下のパソコンを接続することができます。

● マイクロソフト OS

Windows 2000 (SP4以上)、Windows XP、Windows Vista

● アップルコンピュータ OS

Mac OS X 10.2以上

本機とパソコンを接続すると、パソコンは本機をリムーバブルディスクとして認識します。専用のドライバは不要です。

注意

パソコンから本機を接続解除する（「取り出す」）ときは、それぞれのパソコンの正しい取り出し方法に従ってください。正しくない方法で取り出すと、FATパーティションのデータが破壊される可能性があります。（→ 87ページ「パソコンと接続する」）

メモ

本機とパソコン間のデータ転送は、USB2.0スピード（最大）で行われます。ご使用のパソコンがUSB1.1の場合、データ転送は可能ですが、動作が遅くなります。

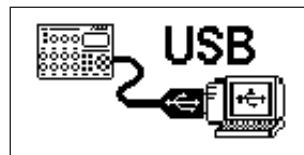
また、USB2.0スピードを得るためには添付ケーブルもしくはUSB2.0に対応したケーブルを使用する必要があります。

パソコンと接続する

本機のFATパーティションを使う前に、本機とパソコンをUSB接続します。USB接続中は、録音／再生など本機のリコーダー操作はいっさいできません。

パソコンと接続するには、付属のUSBケーブルを使って、本機の右サイドパネルのUSBポートとパソコンのUSBポートを接続します。本機の電源をオンの状態でUSB接続しても、USB接続後に本機の電源をオンにしても、どちらでも問題ありません。

本機の電源がオンのときにUSB接続を行うと、現在ロード中のソングが保存された後、USB接続が有効になり、本機ディスプレイに以下のような画面が表示されます。



USB接続後に本機の電源をオンにすると、直接上記の画面が表示されます。

パソコンのディスプレイには "DP-004" という名前の外部ドライブとして表示されます。

注意

バッテリーの残量が少ない状態でUSB接続を行わないでください。データ転送中に電源が切れた場合、データが失われます。また、失われたデータは復活することができません。

第11章 パソコンを使ったデータ送受信

メモ

USB 接続する前に、パソコンに転送するファイルがすべて FAT パーティションにコピーされていることを確認してください。

接続を解除する

以下の手順で USB 接続を正しく解除します。

メモ

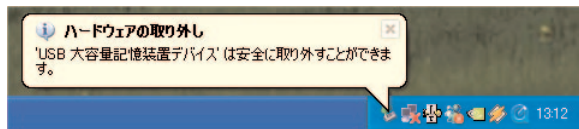
パソコンとの接続を解除することを、パソコン側では「取り出す」あるいは「取り外す」と言います。

注意

データを転送中に USB 接続を解除したり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。パソコンや本機のデータが破壊される可能性があります。

Windows 2000 (SP4以上) / Windows XP / Windows Vista システムの場合

Windows 2000 (SP4以上)、Windows XP、Windows Vista の場合、以下の手順で接続を解除します。
システムトレイ（通常は画面の右下）内に、PC カードのアイコンと矢印があります。



1. このアイコンを左クリックしてポップアップバーを表示します。パソコンから本機を取り出すには、このポップアップバーをクリックします。
 2. パソコン画面に、本機を取り出すことができることを告げるメッセージが表示されたら、USB ケーブルを外します。
本機が再起動してディスプレイにホーム画面が表示されます。
- パソコン画面に、本機を安全に取り出せないことを告げるメッセージが表示された場合、USB ケーブルを外さないでください。本機上のファイルにアクセスしているすべてのコンピュータプログラムとウィンドウを閉じてから、再度上記の操作を行ってみてください。

Macintosh の場合

1. 本機のアイコン（"DP-004"）をゴミ箱にドラッグするか、"Command + E" 操作を行って、DP-004 を「取り出し」ます。

ヒント

- OS バージョンによっては、Finder ウィンドウに表示される DP-004 のイジェクトアイコンをクリックしたり、Control キーを使った操作を行って、取り出すこともできます。
2. アイコンがデスクトップから消えたら、USB ケーブルを外します。
本機が自動的に再起動してディスプレイにホーム画面が表示されます。

ソングのバックアップとリストア

ソングのバックアップでは、オーディオトラックだけでなく編集データなどもバックアップします。ソングのリストアは、これと逆のプロセスになります。つまり、パソコンから本機のFATパーティションへ転送し、ソングデータを復元します。

ソングをバックアップする

バックアップを開始する前に、バックアップするソングを含むMTRパーティションが選択されていることを確認してください。(→46ページ「アクティブパーティションを選択する」)

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示し、DATAホイールを使ってDATA BACKUPを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
DATA BACKUPメニューが表示されます。



2. DATAホイールを使ってSONG BACKUP項目を選択し、F4 (▶) キーを押します。
ソングリストが表示されます。



3. DATAホイールを使ってバックアップしたいソングを反転表示し、F4 (NEXT) キーを押します。
バックアップするソングのファイル名を設定する画面が表示されます。



4. ◀◀ / ▶▶ キー、DATAホイール、F3 / F4キーを使って、ソングの名前(最大8文字)を付けます。(→42ページ「名前の編集」)
5. 名前を付けたら、F2 (EXEC) キーを押します。
ソングがアクティブパーティションからFATパーティションにバックアップコピーされます(拡張子 ".001" が付加されます)。
ディスプレイには "Writing File" の文字とアイコンが表示されます。



バックアップコピーを終了すると、ディスプレイが**DATA BACKUP**メニューに戻ります。

メモ

FATパーティションにソングをバックアップするのに必要な空きスペースがない場合、エラーメッセージが表示されます。この場合、本機とパソコンを接続し、パソコンからの操作で不要なファイルを削除して、空きスペースを確保してください。

6. USB ケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→ 87ページ「パソコンと接続する」)
7. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションのBACKUPディレクトリからパソコンにバックアップファイルをコピーします。
8. コピーを終えたら、USB接続を解除します。(→ 88ページ「接続を解除する」)

注意

- パソコン上でソングファイルの名前を変更すると、あとでファイルを本機にリストアするときに問題を生ずる可能性があります。
- バックアップしたソングファイル名をパソコン上で変更するときは

ファイル名が8文字以内になるようにしてください。

ヒント

- パソコンにバックアップしたソングファイルを、さらにCD-Rなどにバックアップすることができます。
- バックアップしたソングファイルを、自分のDP-004以外のDP-004にリストアすることもできます。このようにDP-004間でのファイルのやりとりが自由にできますので、別の場所でオーバードビングやミックスダウンを行うことも簡単にできます。

ソングをリストアする

リストアは基本的にバックアップの逆の作業です。つまりパソコンから本機にバックアップファイルを転送し、ソングを復元します。

1. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→ 87ページ「パソコンと接続する」)
2. パソコン側の操作で、パソコン上のバックアップファイルを本機のFATパーティションの**BACKUP**ディレクトリにコピーします。
3. コピーを終えたら、本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。(→ 88ページ「接続を解除する」)
4. 本機が自動的に再起動した後、**MENU**キーを押して**MENU**画面を表示し、**DATA**ホイールを使って**DATA BACKUP**メニューを選択し、**F4 (▶)**キーを押します。
5. **DATA**ホイールを使って**SONG RESTORE**項目を選択し、**F4 (▶)**キーを押します。

画面にFATパーティション上のバックアップファイルが表示されます。



メモ

FATパーティションにファイルが存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

6. DATAホイールを使ってリストアしたいファイルを反転表示し、F2 (EXEC) キーを押します。

「実際の」ソング名と確認メッセージ ("Are you sure?") が表示されます。

メモ

ファイル名が短い場合、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。

7. F3 (YES) キーを押します。

現在ロード中のソングが保存された後、手順6.で選択したソングがリストアされ、ロードされます。

メモ

ディスクの空きスペースが足りない場合、エラーメッセージが表示されます。

トラックのインポートとエクスポート

パソコンと本機のFATパーティション間で、トラック個別のインポート/エクスポートが可能です。トラックのインポート/エクスポートに使われるファイルは16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式です(拡張子 ".WAV" が付きます)。別の形式のオーディオを本機にインポートする場合、事前に16ビット、44.1kHzのモノラルWAVファイルに変換する必要があります。

トラックをインポートする

トラックをインポートする前に、アクティブパーティションとしてインポート先のパーティションが選択されていることと、インポート先のソングがロードされていることを確認してください。

1. 本機とパソコンをUSB接続します。(→ 87ページ「パソコンと接続する」)
2. パソコン側の操作で、パソコン上のWAVファイルを本機のFATパーティションのWAVEディレクトリにコピーします。

メモ

コピーするファイルは、半角英数字のファイル名を持つファイルでなければなりません。日本語のファイル名を持つファイルをコピーした場合、後述の手順5.で表記される画面上的ファイル名が表示されないため、インポートすることができません。

3. 本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。(→ 88ページ「接続を解除する」)

第11章 パソコンを使ったデータ送受信

4. 本機が自動的に再起動したら、MENUキーを押してMENU画面を表示し、DATAホイールを使ってWAVEを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
5. DATAホイールを使って、WAVEメニューからIMPORT TRACK項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
FATパーティション上に存在するソングファイルが表示されます。



メモ

- 本機は、44.1kHz以外のサンプリング周波数のWAVファイルやステレオ形式のWAVファイルに対応していません。これらのファイルをインポートしても、ディスプレイに表示されません。インポート可能なファイルがFATパーティション上にない場合、「Import File Not Found」がポップアップ表示されます。
 - ファイル名が短い場合、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。
6. DATAホイールを使って、インポートするWAVファイルを選択し、F2 (NEXT) キーを押します。
ディスプレイに、現在のアクティブパーティションの空きスペースサイズおよび選択したWAVファイルのサイズが表示されます。



7. DATAホイールを使って、WAVファイルのインポート先のトラックを選択し、F4 (EXEC) キーを押します。

メモ

- 十分な空きスペースがない場合や、ファイルのフォーマットが間違っている場合など、エラーメッセージが表示されます。
- インポート先のトラックは空のトラックでなければなりません。本機はFATパーティションからファイルを読み、指定のトラックにインポートします。このときファイルの先頭がソングの先頭(00:00:00:00)に対応します。他の録音トラックと同じように、トラックにインポートされたファイルに対して、編集を行うことができます。(→ 82ページ「トラックの編集」)

トラックをエクスポートする

希望のトラックを16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式のファイルとしてエクスポートすることができます。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、**MENU** キーを押して **MENU** 画面を表示し、**DATA** ホイールを使って **WAVE** を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
2. **DATA** ホイールを使って、**WAVE** メニューから **EXPORT TRACK** 項目を反転表示し、**F4 (▶)** キーを押します。
オーディオが記録されているソングトラックのファイルリストがディスプレイに表示されます。ファイル名から元のトラック番号がわかります。



メモ

オーディオが記録されていないトラックはリストに表示されません。

3. **DATA** ホイールを使って、エクスポートするトラックを反転表示し、**F4 (✓)** キーを押して、チェックボックスをチェックします。



複数のチェックボックスをチェックすることにより、それらをまとめてエクスポートすることができます。

チェックボックスのチェックを外したいときは、そのトラックを反転表示した状態で **F4 (✓)** キーを押します。

4. エクスポートしたいトラックにチェックマークを付け終えたら、**F2 (NEXT)** キーを押します。

FATパーティション（エクスポートするトラックのエクスポート先の空きスペースおよびエクスポートするトラックの総容量が表示されます。



ヒント

上記手順3.でトラックを反転表示してから（チェックマークを付けずに）**F2 (NEXT)** キーを押すと、反転表示したトラックだけがエクスポートされます。

5. F4 (EXEC) キーを押します。

選択したトラックが、編集した名前に拡張子 ".WAV" を付加したトラックファイル名でFATパーティションにエクスポートされます。以前に同じ名前のトラックファイルをエクスポートしている場合、確認メッセージ ("Duplicate name — Are you sure?") が表示されます。F3 (YES) キーを押すと上書きされます。

6. 本機とパソコンを接続します。(→ 87ページ「パソコンと接続する」)

7. パソコン側の操作で、トラックファイルを本機のFATパーティションのWAVEディレクトリからパソコンにコピーします。

8. トラックファイルをパソコンにエクスポートしたら、本機を正しい手順でパソコンから取り出し、USBケーブルを外します。(→ 88ページ「接続を解除する」)

- パソコンにエクスポートしたトラックファイルを、さらにCD-Rなどにバックアップすることもできます。
- パソコンにエクスポートしたトラックファイルの名前を、パソコン側で変更することができます。この場合、「8.3形式」に従い、拡張子 ".WAV" を付加することを忘れないでください。また、特殊なシンボルなどを使用しないでください。
- パソコンにエクスポートしたトラックを、あとで本機または他のDP-004にインポートすることができます。

ステレオマスターをエクスポートする

マスタリングを終えたステレオマスター (→ 60ページ「マスタリング」) をパソコンにエクスポートすることができます。新しいステレオマスターを作成するとき、既存のステレオマスターは上書きされますので、複数の異なるステレオマスターを残しておきたい場合はパソコンに保存するとよいでしょう。

以下に述べるエクスポート手順を開始する前に、ステレオマスターをエクスポートするソングが現在ロードされていることと、ステレオマスターが作成されていることを確認してください。

1. トランスポート停止中でホーム画面表示中、MENUキーを押してMENU画面を表示し、DATAホイールを使ってWAVEを反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
2. DATAホイールを使って、WAVEメニューからEXPORT MASTER項目を反転表示し、F4 (▶) キーを押します。
デフォルトのファイル名が表示されます。この状態で編集が可能です。



メモ

ステレオマスターが存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

3. ◀ / ▶ キー、DATA ホイール、F3 / F4 キーを使って、エクスポートするステレオマスターファイルの名前を編集します。(→ 42 ページ「名前の編集」)
4. 名前の編集を終えたら、F2 (EXEC) キーを押します。
16ビット、44.1kHzの1つのステレオWAVファイルとして、ステレオマスターファイルがFATパーティションにエクスポートされます。
エクスポートされたファイルは、上記手順3.で編集した名前に拡張子".WAV"を付加したファイル名になります。

メモ

エクスポートをキャンセルしたい場合は、F1 (BACK) キーを押します。

5. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→ 87 ページ「パソコンと接続する」)
6. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションのWAVEディレクトリ内のステレオマスターファイルをパソコンにコピーします。
7. ファイルのコピーを終えたら、本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。(→ 88 ページ「接続を解除する」)

第12章 トラブルシューティング

本機を使って作業しているとき、思いどおりに動作してくれなかったり、どうしていいかわからないような場合、まずこのトラブルシューティングをご覧ください。「よくあるトラブル」とそれに対する「考えられる原因」が書かれています。

また、100ページ「メッセージ」には、ディスプレイに表示されるメッセージの内容／意味が表にまとめてあります。行った操作に対して、メッセージが表示されて本機が操作を受け付けられない場合、この表を参考にしてください。

再生しているのに音が出ない

- トラックのLEVELつまみは適正なレベルまで上がっていますか？
- MASTER LEVELつまみは適正なレベルまで上がっていますか？
- Ω /LINE OUT 端子からモニターシステムに正しく接続されていますか？
また、モニターシステムが正しく設定されていますか？
- VOLUMEダイヤルが適正なレベルまで上がっていますか？

録音しようとするサウンドが歪んで聞こえる

- 本機のトップパネルのINPUT AまたはINPUT BセクションのLEVELつまみが上がりすぎていませんか？
あるいは、入力ソースのレベルが高すぎませんか？
- モニターレベルが高すぎて、モニターシステムが歪んでいませんか？

録音ができない

- 録音 (●) キーを押しながら再生 (▶) キーを押して録音を開始する時点で、少なくともいずれか一つのトラックが録音待機状態 (RECインジケータ点滅) になっていますか？
- 入力チャンネルがトラックにアサインされていますか？ (→ 56ページ「入力チャンネルをアサインする」)

パソコン上に本機のファイルが表示されない

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？ (→ 87ページ「パソコンと接続する」)
- USB接続する前に、FATパーティションにソング、トラックまたはステレオマスターをバックアップまたはエクスポートしてありますか？ (パソコンからは直接MTRパーティション内のファイルを読むことはできません。)

オーディオ入出力定格

● IPNUT A :

端子：標準ホンジャック・不平衡

入力インピーダンス：

10k Ω 以上 (INPUT A 切換スイッチを "MIC/LINE" に設定時)

1M Ω (INPUT A 切換スイッチを "GUITAR" に設定時)

基準入力レベル：-10dBV

最大入力レベル：+6dBV

ヘッドルーム：16dB

● IPNUT B :

端子：標準ホンジャック・不平衡

入力インピーダンス：10k Ω 以上

基準入力レベル：-10dBV

最大入力レベル：+6dBV

ヘッドルーム：16dB

● Ω /LINE OUT 出力：

端子：3.5mm ミニホンジャック (ステレオ)

● ライン接続時

基準出力レベル：-16dBV

最大出力レベル：0dBV

● ヘッドホン接続時

最大出力レベル：15mW + 15mW (32 Ω ヘッドホン接続時)

オーディオ性能

● 周波数特製：

INPUT (MIC/LINE) \rightarrow LINE OUT : 20Hz \sim 20kHz

● 歪率：

INPUT (LINE) \rightarrow LINE OUT : 0.05%以下

● S/N比：

INPUT (MIC/LINE) \rightarrow LINE OUT : 81dB以上

一般

● 記録媒体：

SDカード (512Mバイト \sim 2Gバイト) および SDHCカード (4Gバイト \sim 32Gバイト)

● ファイルシステム：

MTRパーティション：TASCAMオリジナル

FATパーティション：FAT32

● 電池持続時間 (連続再生時)：

約8時間 (JEITA 録音時)

約8.5時間 (JEITA 音楽再生時)

(アルカリ乾電池使用時。使用状況により変動することがあります。)

● 使用温度範囲：5 \sim 35 $^{\circ}$ C

第13章 仕様・ブロックダイアグラム・メッセージ

- 消費電力：1W
- 外形寸法：
155.0 (幅) × 33.5 (高さ) × 107.0 (奥行) mm (突起部含まず)
- 質量：360g (電池を含みます)

別売アクセサリ

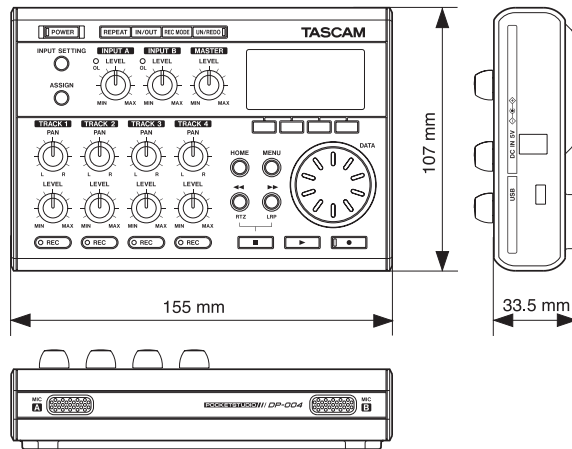
- ACアダプター：PS-P520

接続するパソコンの条件

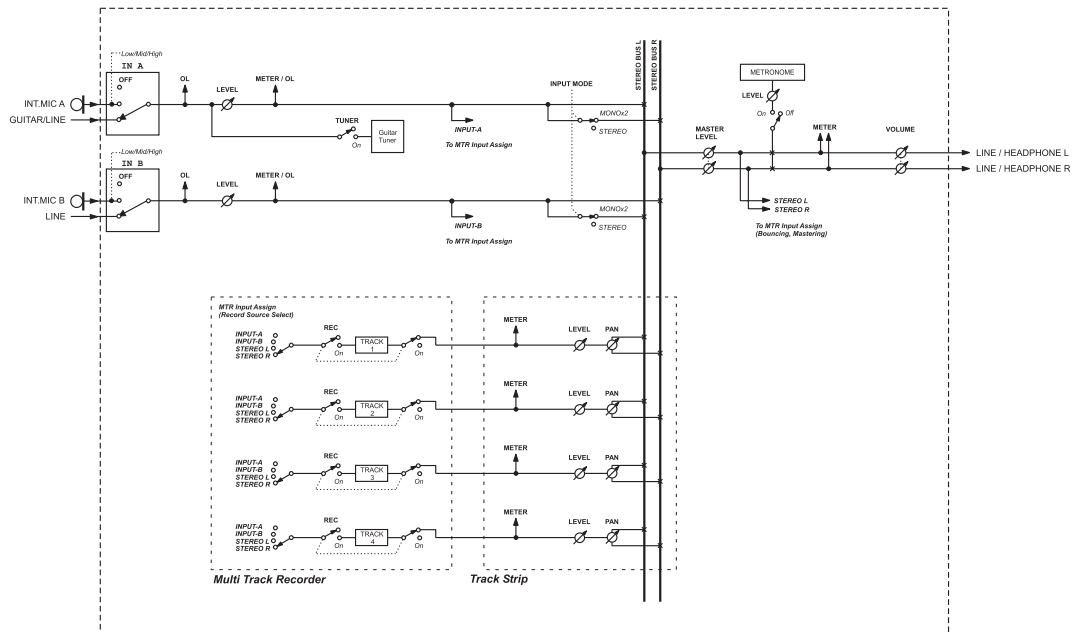
- Windows マシン：
Pentium 300MHz以上
128MB以上のMemory
USBポート (推奨：USB2.0)
- Macintosh マシン：
Power PC、iMac、G3、G4 266MHz以上
64MB以上のMemory
USBポート (推奨：USB2.0)
- 推奨 USBホストコントローラー：
Intel製チップセット

- サポートOS：
Windows Windows 2000 SP4以上、Windows XP、
Windows Vista
Macintosh Mac OS X 10.2以上

寸法図



ブロックダイアグラム



メッセージ

以下のポップアップメッセージの一覧表を示します。DP-004では状況に応じたポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Empty Export Track	「エクスポートトラックが空っぽです。」 何も録音されていないトラックをエクスポートしようとする则表示されます。(→ 91 ページ「トラックのインポートとエクスポート」) 別のトラックをエクスポートしてください。
File Not Found	「ファイルが見つかりません。」 FATパーティションにバックアップされたソングがないときに、ソングをリストアしようとする则表示されます。(→ 89 ページ「ソングのバックアップとリストア」)
I/O Too Short	「IN ポイントと OUT ポイントが近すぎます。」 リピートモードに入ろうとするときに IN ポイントと OUT ポイントが近すぎると表示されます。 IN ポイントと OUT ポイントを2フレーム以上離してください。
Import File Not Found	「インポートするファイルが見つかりません。」 WAV ファイルのない FAT パーティションから WAV ファイルをインポートしようとしています。(→ 91 ページ「トラックをインポートする」) 本機をパソコンに接続して、インポートするファイルをパソコンから本機の FAT パーティションに転送してください。
Import File Too Large	「インポートするファイルが大きすぎます。」 アクティブパーティションの空きスペースより容量の大きい WAV ファイルを FAT パーティションからインポートしようとしています。アクティブパーティション内の不要なファイルを削除して空きスペースを増やしてから再度インポートを試みてください。
In Bounce Mode	「バウンスモード中です。」 バウンスモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。

メッセージ	内容と対処方法
In Master Mode	<p>「マスタリングモード中です。」</p> <p>マスタリングモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。</p>
In Repeat Mode	<p>「リピートモード中です。」</p> <p>リピートモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。</p>
Master Track Not Found	<p>「マスタートラックが見つかりません。」</p> <p>ステレオマスターがソング内に録音されていないときにステレオマスターをエクスポートしようすると表示されます。(→ 94 ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)</p> <p>ソングをマスタリングしてから、ステレオマスターをエクスポートしてください。</p>
Master Track Too Large	<p>「マスタートラックが大きすぎます。」</p> <p>FATパーティションの空き容量より大きなステレオマスターをエクスポートしようとしています。(→ 94 ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)</p> <p>本機をパソコンに接続して、FATパーティションの空きスペースを拡げてください。</p>
No Disk Space	<p>「ディスクスペースがありません。」</p> <p>パーティションパーティションに十分な空きスペースがないときにソングを作成しようとすると、このメッセージが表示されます。(→ 48 ページ「新しいソングを作成する」)</p> <p>スペースを拡げてからソングを作成してください。</p>
No Master Trk	<p>「マスタートラックが存在しません。」</p> <p>トラックのクローンを作るとき、存在しないマスタートラックをソースとして選択しようとすると表示されます。(→ 83 ページ「クローントラック (トラック複製)」)</p> <p>マスタートラックを作るか、または別のソースを選択してください。</p>

第13章 仕様・ブロックダイアグラム・メッセージ

メッセージ	内容と対処方法
No Song	<p>「ソングがありません。」</p> <p>ソングが存在しないパーティションからソングをロードしようとしています。(→ 47ページ「ソングをロードする」)</p> <p>パーティションを変更してください。(→ 46ページ「アクティブパーティションを変更する」)</p>
No Undo Histroy	<p>「アンドゥのヒストリーがありません」</p> <p>アンドゥするような操作が存在しません。(→ 64ページ「操作履歴の消去について」)</p>
Not Stopped	<p>「レコーダーが停止していません。」</p> <p>レコーダーが停止していないとき、たとえばUN/REDOキーのように停止中でないと受け付けられないキーを押すと、このメッセージが表示されます。</p>
Now Recording	<p>「レコーディング中です。」</p> <p>レコーディングを行っているときにメニュー操作を行おうとすると表示されます。他にもレコーディング中に受け付けられない操作があります。</p>
Same Track	<p>「同じトラックを指定しています。」</p> <p>クローントラック設定で、"Src Trk" と "Dst Trk" とで同じトラックを指定すると表示されます。</p>
Song Protected	<p>「ソングがプロテクトされています。」</p> <p>プロテクトされているソングに変更（録音、編集など）を加えようすると表示されます。(→ 52ページ「ソングをプロテクトする」)</p> <p>変更を加える前にプロテクトを解除してください。</p>
Too Many songs	<p>「これ以上ソングを作成できません。」</p> <p>一つのパーティションが持つことができるソングの数は最大250です。不要なソングを削除してから、新しいソングを作成してください。</p>

メッセージ	内容と対処方法
Track Full	<p>「トラックが録音済みです。」</p> <p>FATパーティションからすでに録音されているトラックにファイルをインポートしようとする则表示されます。(→ 91 ページ「トラックをインポートする」)</p>
Trk Too Short	<p>「トラックが短すぎです。」</p> <p>ゼロポジションをOUTポイントに設定してマスタリングを行おうとする则表示されます。(→ 60 ページ「マスタリング」)</p> <p>OUTポイントを設定し直してください。(→ 69 ページ「IN / OUTポイントを設定する」)</p>
No SD Card	<p>「SDカードが挿入されていません。」</p> <p>電源をオフにしてからSDカードを挿入してください。</p>
Invalid Card	<p>「挿入されているSDカードはDP-004で使用できないフォーマットです。」</p> <p>電源をオフにしてから別のSDカードを挿入するか、MENU → CARDからFORMATしてください。</p>
Protected Card	<p>「挿入されているSD CARDはプロテクトされています。」</p> <p>録音や編集を行いたい場合は、電源をOFFしてSDカードのプロテクトを解除してください。</p>
Card Full	<p>「録音中にSDカードがいっぱいになりました。」</p>
Trk Edit Fail	<p>「トラックエディットに失敗しました。」</p> <p>ソングを保存してから本体の電源を入れ直して再度トラックエディットを実行してください。</p>
Battery Empty	<p>「電池が空です。」</p> <p>電池がほとんど空の状態の時に表示されます。</p> <p>新しい電池に交換するか、別売のACアダプター (PS-P520) を接続してご使用ください。</p>

第13章 仕様・ブロックダイアグラム・メッセージ

メッセージ	内容と対処方法
Battery Low	「電池が空に近いです。」 電池が空に近い状態で録音しようとする则表示されます。 新しい電池に交換するか、別売のACアダプター（PS-P520）を接続してご使用ください。
SD Size Error	「DP-004では使用できない小さいサイズのSDカードが挿入されています。」 512Mバイト以上のSDカードをご使用ください。
Work Memory Full	「ソングの録音や編集のために必要なワークメモリがいっぱいになりました。」 カードの空き容量が残っていても、1ソングでの長時間録音を行ったり、編集作業を多く行うと発生する場合があります。 履歴のクリア（→64ページ「操作履歴の消去について」）を実行すると空きワークメモリが増え、作業が続行できる場合があります。 電源をオフすることでも空きワークメモリーが増え、作業が続行できる場合があります。
SD Not Found	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。
SD Read Busy	これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談ください。
SD Write Busy	
I/F Error	
FileErr	
Audio Rst Fail	
SaveParam Fail	
Mount Error	
SD-Card Error!	

第14章 こんなことをするには

以下に、パネルを見ただけではやり方がわからないような機能の操作方法を一覧表にまとめます。メッセージ一覧と合わせてご利用下さい。

なお、項目は五十音順に並んでいます。

- キー名称は REPEAT のように表記します。
- STOP + ◀◀ のような表記は、「STOP キーを押しながら ◀◀ キーを押す」という意味です。

- 「MENU キーを押し、メニュー選択画面から CARD メニューを選択し、CARD メニューの中から FORMAT 項目を選択する」という操作を「MENU⇨CARD⇨FORMAT」のように表記します。
- 複雑な操作の場合、全部の操作は表記しません。

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
FAT パーティションをフォーマットしたい	MENU⇨CARD⇨FAT REFORMAT	「FAT パーティションを再フォーマットする」(80 ページ)
IN、OUT ポイントを設定したい	"IN/OUT、F3、F4"	「IN/OUT ポイントを設定する」(69 ページ)
IN、OUT ポイントを編集、トリミングしたい	"IN/OUT、F2"	「IN/OUT ポイントを設定する」(69 ページ)
USB 接続を有効にしたい	本機とパソコンを USB ケーブルで接続します	「パソコンと接続する」(87 ページ)
USB 接続を解除する	本機をパソコンから切断します	「接続を解除する」(88 ページ)
WAV ファイルをトラックにインポートしたい	MENU⇨WAVE⇨IMPORT TRACK	「トラックをインポートする」(91 ページ)
アクティブパーティションを変更したい	MENU⇨CARD⇨PARTITION	「アクティブパーティションを選択する」(46 ページ)
ギターやベースをチューニングしたい	MENU⇨TUNER	「チューナー」(73 ページ)
現在のアクティブパーティションを知りたい	MENU⇨INFORMATION	「ソング情報を見る」(49 ページ)
SD カードの全領域をパソコンで使用可能にしたい	MENU⇨CARD⇨SD INITIALIZE	「カードをイニシャライズする」(81 ページ)
SD カードをフォーマットしたい	MENU⇨CARD⇨FORMAT	「カードをフォーマットする」(78 ページ)
新規ソングを作成したい	MENU⇨SONG⇨CREATE	「新しいソングを作成する」(48 ページ)

第14章 こんなことをするには

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
ステレオマスターを作成したい	REC MODE⇨MASTER	「マスタリング」(60ページ)
ステレオマスターをパソコンにエクスポートしたい	MENU⇨WAVE⇨EXPORT MASTER	「ステレオマスターをエクスポートする」(94ページ)
アンドゥした操作を取り消したい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」(63ページ)
操作を取り消して、以前の状態に戻りたい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」(63ページ)
ソングに名前を付けたい	MENU⇨SONG⇨NAME EDIT	「名前の編集」(42ページ)
ソングのプロテクトを解除したい	MENU⇨SONG⇨PROTECT	「ソングをプロテクトする」(52ページ)
ソング名を見たい	MENU⇨INFORMATION	「ソング情報を見る」(49ページ)
ソングをコピーしたい	MENU⇨SONG⇨COPY	「ソングをコピーする」(49ページ)
ソングを削除(消去)したい	MENU⇨SONG⇨ERASE	「ソングを消去する」(51ページ)
ソングをバックアップしたい	MENU⇨BACKUP⇨SONG BACKUP	「ソングのバックアップとリストア」(89ページ)
ソングをプロテクトしたい	MENU⇨SONG⇨PROTECT	「ソングをプロテクトする」(52ページ)
ソングを保存したい	MENU⇨SONG⇨SAVE	「ソングを保存する」(48ページ)
ソングをロードしたい	MENU⇨SONG⇨LOAD	「ソングをロードする」(47ページ)
トラック全体を消去したい	TRACK EDIT⇨CLEAN OUT	「クリーンアウト(トラック削除)」(83ページ)
トラック内に無音パートを挿入したい	TRACK EDIT⇨OPEN	「オープン(無音挿入)」(85ページ)
トラックの一部をカットして詰めたい	TRACK EDIT⇨CUT	「カット(部分削除)」(84ページ)
トラックの一部を無音にしたい	TRACK EDIT⇨SINLENCE	「サイレンス(部分消去)」(84ページ)
トラックのクローンを作りたい	TRACK EDIT⇨CLONE TRACK	「クローントラック(トラックの複製)」(83ページ)

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
トラックの内容をパソコンにエクスポートしたい	MENU⇨WAVE⇨EXPORT TRACK	「トラックをエクスポートする」(93ページ)
トラックバウンスをやりたい	REC MODE⇨BOUNCE	「トラックバウンス」(66ページ)
パーティションをフォーマットしたい	MENU⇨CARD⇨REFORMAT	「MTRパーティションをフォーマットする(リフォーマット)」(79ページ)
パソコンからソングをリストアしたい	MENU⇨DATA BACKUP⇨SONG RESTORE	「ソングのバックアップとリストア」(89ページ)
別のトラックにピンポン(バウンス)したい	REC MODE⇨BOUNCE	「トラックバウンス」(66ページ)
メトロノームの設定をしたい	MENU⇨METRONOME	「メトロノーム機能」(72ページ)
メトロノームを使いたい	MENU⇨METRONOME	「メトロノーム機能」(72ページ)
録音残時間を知りたい	MENU⇨INFORMATION	「ソング情報を見る」(49ページ)
作成したステレオマスタートラックを聞きたい	REC MODE⇨MASTER PLAY	「マスタリング」(60ページ)
内蔵マイクを使いたい	INPUT SETTING	「入力ソースを選択する」(53ページ)
ギターを録音したい	INPUT SETTING	「入力ソースを選択する」(53ページ)
入力信号をモノラル(またはステレオ)でモニターしたい	INPUT SETTING⇨MODE	「モニターモードを設定する」(54ページ)
INPUT A/Bをアサインするトラックを変更したい	ASSIGN	「入力チャンネルをアサインする」(56ページ)
リピート時のインターバルタイムを変更したい	MENU⇨PREFERENCE	「リピート再生の間隔を設定する」(71ページ)
オートオフ機能を使いたい	MENU⇨PREFERENCE	「電源のオートオフ」(74ページ)
画面のコントラストを変更したい	MENU⇨PREFERENCE	「コントラストを設定する」(45ページ)

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。

タスカム営業技術 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



® **0120-152-854**

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30～17:00 です。

ティアック修理センター 〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-8



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

® **0570-000-501**

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新日電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新日電各社へお問い合わせいただくか、通常電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530
東京都多摩市落合1-47

<http://www.tascam.jp/>